愛國婦人

天長節號

創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●每月二回（五日廿日）發行●電話番町千七百四十五番●同五百廿番●遞送無料●振替貯金口座壹壹三八一番

●定價一部金三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金六十錢●發行所東京麴町區牛ヶ淵公園內愛國婦人發行所●發行兼印刷人山澤俊夫●編輯者永持德一

◀天長節と千秋節▶

謹んで按ずるに、天長の文字は「老子」より出で至尊の御降誕の日にしも之れを名づけられしは天地と共に長久なる義にて 聖壽の無疆を祝し奉る意にぞあるべき。支那にては、唐の玄宗の生日を、千秋節と名づけ、群臣に酺宴を賜ひ天下をして宴樂せしめたるが始めなり。翻つて我が國の事を考ふるに、聖誕の御日を天長節と名づけて、令節とせられしは、光仁天皇寶龜六年を始めとし、その後中絕せしが如かりしも當今御世をしろしめし給へる明治元年八月二十六日に、古儀を復し給ひ、玆に、復び、聖壽萬歲を祝し奉る事とはなりぬ。

陛下の大御心

聖上生れまし〻、今日の佳節を、天長地久と壽ぎ奉る臣民の數、年は一年と多くなり行き、聖上司らす皇國の稜威月ごと日ごと彌優り行く。日の出づる帝の國の榮行く聖代こそ有難けれ。

幾許の幸ぞ、數にも足らぬ吾人、斯土の臣民の一人と、榮行く、此聖代に生れて、天と廣く、海と深き 陛下が仁慈の雨に浴せんとは。斯る仁慈の雨に浴せる吾人臣民は、いかで、思ふ赤誠を 陛下に致し、いとせめて、仁慈に富ます大御心の萬分一に酬ゐ奉らでやは。

高き家に上りて、民の竈の烟の數々打ち眺めさせられ、臣民の憂愁を聖上の憂愁と、いといたく大御心を腦めさせられし 陛下もありき。知らずや、明治の聖代しろし召す 今上陛下も、臣民の憂愁を 聖上の憂愁との大御心いと厚く、その厚き大御心は、臣子より願ぎ出づる御內努御增額の御儀をだに、幾年以來絕えて勅許し給はぬも畏からずや。斯る畏き大御心を漏れ承はるにつけても、いといと 陛下に恐多きは、國家の法律を無視するもの〻尠からで、牢獄住居の犯罪人、每年二十萬を以て數へらる〻ことなり。

陛下の惠みの御光は、暗き牢獄の裡をも照らすなるに、斯る惠みの御光を無視する二十萬人の在監者あらんとは。

聖の御代にはあれど、世の潮進み行くにつれ、いよ〻事繁きに、事々知らせ給はぬ限も無き 聖上、いかで此事知らせ給はざらむ。知りて憂ひ思はせ給はざらむ。畏しや。

今日の佳節を迎へて限りなく聖代壽ぎ奉るにつけても、私に 聖上の此聖意を伺ひ奉れば、畏さに、背に汗せざるものあらざらむ。恐れ多きかな。

陛下の厚く深き御思召にて、牢獄の結構、牢獄內の待遇も、日に月に、善きより善きに改まりぬ。しかはあれど、犯罪者の心は、なかなか改まるべくもあらず有司の力も、法律の力も、犯罪者の心に何をも加ふる能はざるなり。獨り力あるものは、臣民の總ての力なり、個々の家庭の力なり。罪は善からぬ家庭に芽ざすとかや。善惡素別なし、境遇善惡の心を生せしむとかや。家庭の最小き者に、最力あるものは一家の主婦なり。次いでは主人なり。一家に主婦、主人たるもの最小き事柄より、知らず、思はず家庭の最小き者の白紙と潔き心に、惡しき事の種子を蒔けるが原因にて、罪の根ざし彌はびこり、遂に覆へすべからざるに至り法律を無視する犯罪者をも出すと聞く。恐るべき罪の子を出すも家庭なれば、罪の子出づるを未發に拒ぎ得べき力あるものも亦た家庭なり。家庭に主婦、主人たるものの掌裡に、その力は握られてあり。されば一個不良の家庭の覺醒は、少くとも、一人の犯罪者を未發に拒ぎ得べきことは火を睹るよりも明かなり。唯だ難きは、惡には染み易けれども、善には遷りがたきことと之れのみ。知らずして惡の種を蒔き易き假染の口を開くことは易けれども、之れを愼むことの難きのみ。然はあれど、臣民の總てにして、悉く 陛下の大御心を體し、一意擧りて力を斯事にのみ致さば、數年の間にして、二十萬人の罪の子を絕滅せしむるも甚だ難からじ。

聖上生れまし〻佳節の今日、か〻る異常の言を傳ふるを怪み思ひ給ひそ。これも仁慈に富ませ給ま〻 陛下の大御心の在し給ふ一つなればぞかし。希くは吾人陛下の大御心を旨とし家庭覺醒に務む。

東西婦人の趣味

文學士　瀧精一

昔日の日本婦人と今日の日本婦人
今日の日本婦人と今日の歐米婦人
東西婦人の趣味を同等にしたきもの

吾が日本婦人の今日の地位が昔日より向上せるにも拘はらず、昔日の日本婦人が豐富の趣味を有せしに比ぶれば、品位の點に於て大に低下せしと云ふべきなり。婦人の品性は淑德の豐かなると否とによりて定むべきは勿論なれど、其修養の點と嗜好の範圍とに於て、品位の定まるや明かなり。

文藝に就て比較せよ。昔日の如き高潔の婦人現代に存在せりや文藝の趣味豐なる婦人多く現代に存在せりや。歐米の婦人は美術を愛し、文學を好むや、その度遙かに男子を凌ぐ。然るに我國に於ては、美術を嗜好するもの、概して男子に限る。これ如何なる現象ぞや。

日本の婦人をして金錢の自由を得せしめば、その嗜好の眼は金色燦然たる帶地に走り、若くは金剛石の指環に走ることならむと信ず。歐米婦人また、その被服指環に走るものなしとは云はず。されど美術上の逸品に莫大の金錢を投じ、趣味の眼を養ふの資とするを惜まざること歐米婦人の如きは、殆んど我國婦人に見るを得ざる處なるべし。

過去四十餘年間に於ける我國文運の進歩は著るしきものなり。然れども尙は過渡期の文明に在り。過渡期に在る今日の文明に對し、完全を求めんとするは不條理の事なるべきも、せめては昔日の婦人の有せしだけの趣味、品性を、今日の婦人に保せたきものなり。尙は歩を進めて東西婦人の品性に、甲乙の差なきまでに致したきものなり。これ余の希望なり。希望の餘り、敢て苦言す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の住みし三十年前の伊太利

侯爵夫人　鍋島榮子

二千噸の船で歐羅巴通ひ

伊太利公使夫人として、伊太利に參つて居りましたのは、現時からは三十年前のことで御座います。那の頃には、未だ日本の財政も至つて乏しい時代でありましたから、羅馬に在つた公使館とても誠に見そぼらしいものでした。那の頃公使と云つた名稱が、今日では大使と變つたやうに、今日の伊太利駐箚大使は、三十年前に總ての不足を自費で補つて居りました時代とは、いろ〳〵の點、振合が違つて參つたことゝ思ひます。

何に致せ、那の頃は、日本から歐羅巴へ參るのに汽船で五十日もかゝつたのでした。それも其の筈、那の頃には、今日とは違つて、歐羅巴通ひの汽船ですら、僅かに二千噸ばかりの小船で御座いましたから、船體の搖れ方も激しかつたのでした。ですから、私なぞも船暈をして苦しみましたのでしたが、今日のやうに一萬噸も二萬噸もあるやうな汽船で參りましたら、私でも那のやうに船暈なぞをすることは無かつたらうと思ひます。

其頃には珍らしき和服姿

それに那の頃は、日本人で外國へでも行かうと云ふ人――殊に、外國行きの汽船へ婦人の乘客は極く稀れ〳〵で御座いましたから、同船の外國船客も珍しく思つたらしい樣子で、私の和服姿なぞを餘程注意して見て居つたらしいので御座いました。

日本の狀勢の變つたやうに、伊太利の狀勢も、今日では全く變つて居ります。私の伊太利に居りました頃は、今日では皇太后になつて居られるお方が、皇后陛下であらせられたのでした。ですから、それに準じて總てのことが勿論異つて居りました。それに、伊太利一般の狀態が今日よりも、餘程古風のやうに思はれました。梨本の君樣が歸られてのお話に依りましても、確かに左樣思はれます。

三十年間終始一貫

唯今でも左樣のやうで御座いますが、伊太利は至つて住み好い、暮し好い處のやうで御座います。他の歐羅巴の諸國と較べて見ますと、何うも生活の程度が幾分か低いやうに思はれました。

それに伊太利で、私の宜しいことと思ひましたのは、唯今では何うか存じませんが、少くとも其頃同國人の心が質朴であつたやうに思はれたことで御座います。御承知のやうに、伊太利の人は頭の髮が黑く、眼の色も黑く、それに丈も餘り高い方では御座いませんから、日本人の私の眼からは誠に懷しい國人のやうにも思はれました。

那の國の人の質朴だと云ふ一つの例に之れが成らうかと思ひますのは、私共が伊太利に居りました頃從僕として。眼をかけて使つて居たのが御座いました。それは伊太利の人で、その頃は未だ血氣の靑年でした。が、好く私共に使へて呉れましたのですから、歸朝致します砌、いろ〳〵紀念の品を與へて置きましたので御座います。その頃でも質朴な靑年だと思つて居りましたのですが、爾後、三十年經つた今日でも、日本の侯爵から贈られたものであると云つて、丁寧に保存して居るさうで御座います。

梨本の君樣が伊太利へ成つしやつた時にも、この人が、侯爵鍋島から贈られたのであると云つて、その品々を、お眼にかけたさうでありまして、三十年前の靑年も、今日は思慮のかたまつた年配になりまして、相變らず、伊太利の日本大使館に從僕長として、好く使へ、好く働いて居るとのことで御座います。何に致せ三十年間終始一貫して同じ場處に、忠實に使へて居るだけでも、如何に此人が質朴であるかゞ知れやうと思ひます。

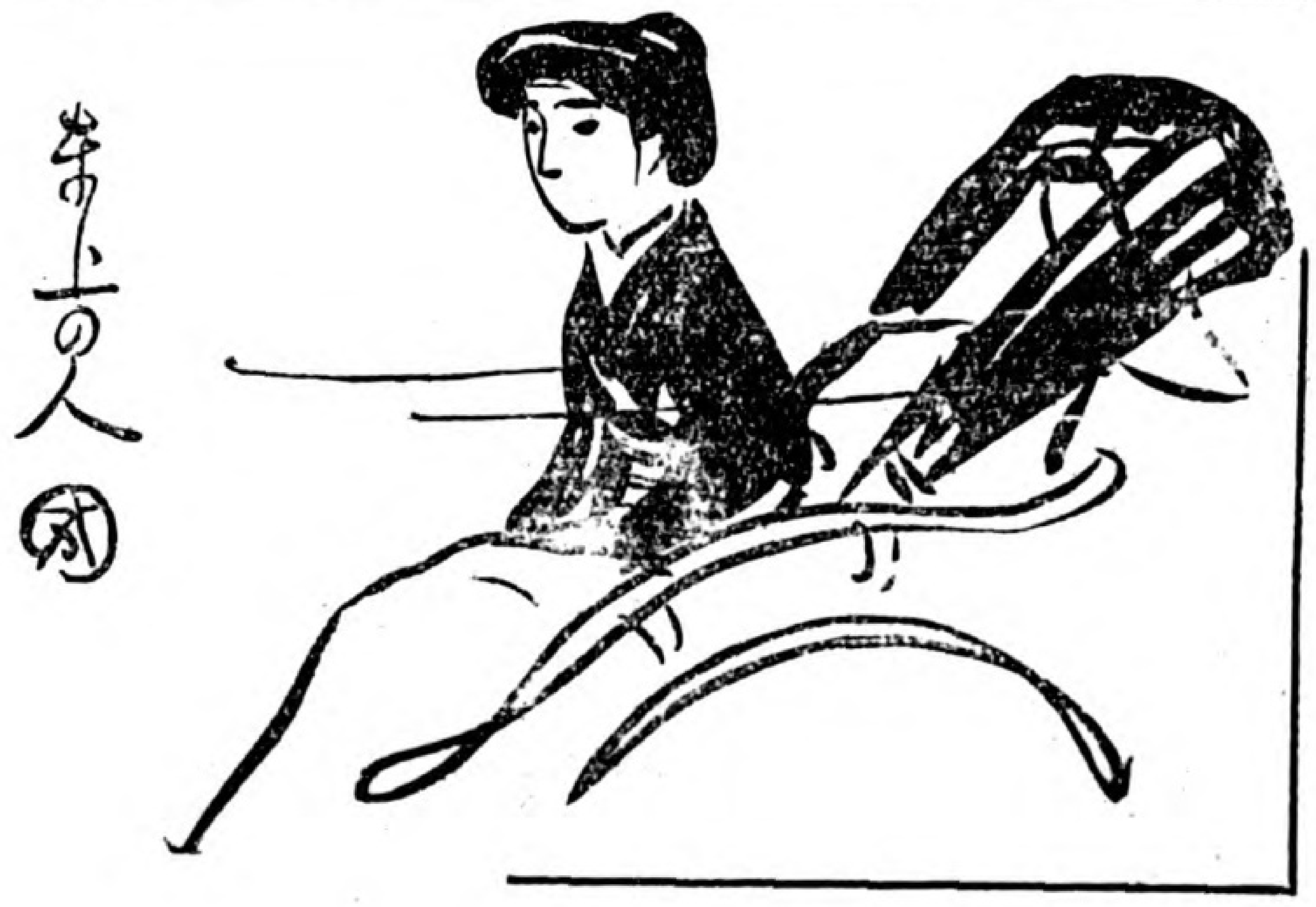
質朴なる伊太利人

梨本の君樣をお宿し申したのは、この伊太利に居ります頃で御座いました。で御座ましたから、伊太利に二年駐箚致して歸朝致しました頃には、この稚い姫を伴れて居りましたし旁々餘り處々を見ると云ふ譯にも參りませんので、大陸では佛蘭西へ鳥渡、獨逸へ鳥渡足を踏み入れた位なもので御座いました。唯々、君さまは伊太利の都で誕生されましたので、伊都子と命名致したので、伊太利の人は其頃、君さまのことをローマ〳〵と申して居りました。御承知のやうに、羅馬は私共の居りました、伊太利の都で御座いますので。

此樣な緣故で、梨本の君樣が伊太利へ成つしやつた際には、切りに君樣を懷しがつたとのことで御座います。ですから三十年前私共の住んで居つた建物が其儘殘つて居ります處へ、御案內を致し、尙ほ此の建物の中で誕生された鍋島侯爵の姫樣が、今は妃殿下に成つしやつて居られるのは實に、我等には光榮の至りであると云ふやうなことを申し、眞心から、君樣をお迎へ致したとのことで御座いました。

何に致せ三十年も往昔のことで御座いますから、大分記臆も朧げになつて居ります。その中、隣國のことではあり、有名な處ではあり致すものですから、彼の瑞西へ時々遊びに參つたことは記臆致して居ります。

瑞西は寒い土地、伊太利はお暖い土地、隣同士の國であつても氣候は大層違つて居りますので。併し流石に瑞西は結構な土地であると唯今も記臆致て居ます



△昔の菊花の名所

（第三面より續く）

斯くの如く奈良朝から平安朝へかけては誠に菊花の全盛時代で、梅も櫻もあつたものにあらず、何でも菊はお目出度い花、延壽の花、其れに加へて花は美しいし、香は高い。正に日本の代表花として愛でらるゝのあまり、菊に着せ綿と云ふやうなことまでするやうになつたのである。即ち菊の花に綿を着せることで、九月九日此の着せ綿で身體を撫でれば齡を延ばすと云はれてゐた。思ふに是れ菊花を愛するの餘り、夜寒朝寒に菊の花をあてまいとして綿を着せたのであらう。此の位の全盛時代であるから、當時菊花の名所としては隨分多く、今日僅かに團子坂の菊を以て天下に鳴るものとは餘程段が違ふやうに思はるゝ。

先づ當時の名所と云へば、寛平の菊合せにもある通り、山城の皆瀨、嵯峨大澤池、紫野、攝津の田蓑野島、奈良の棹河、和泉吹居、紀伊の吹上濱、伊勢の細代濱等である。因みに記す、此の寛平の菊合せには、菅公の詠じたる「秋風のふきあげにたてる白菊は花かあらぬか浪のよするか」が最も名歌であつたさうな。

有爲轉變は世の習ひ、斯くの如く全盛を極めた菊花も、年を經るに從つて色の褪るは素より當然今は昔の榮花もなく、梅櫻にさへ推されてゐる有樣である。さらば筆を擱くに臨み、延壽の花の齡こそ祝れ。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◀菊の花▶

二千七百餘年前、開化天皇の頃、菊合の儀行はれ、この花、こよなき譽を負ひぬ。彼の慈童の七百餘歳のよはひはとまれ、菊の花を詠める歌に薫ひの意こめぬは少なし。英語にて菊をクリサンスマムといふ。こは黄金なる花と云ふ意なりとぞ。耳の誤りにやキャンリサンスモン（禁裏樣の紋）と聞ゆるも可笑し。

菊花と國民性

文學博士　物集高見

菊花の珍重された故實と由來
菊花を詠んだいろ〳〵の詩歌
菊花の名所と支那の菊花

△菊花は武士道の徴象

秋漸く闌にして、庭面を飾る七草千草の既にすがれ果てゝゐる頃、籬に倚りて獨り霜に驕れる黄菊白菊の嚴としたる風情は、三軍散じ盡て旌旗飜れたる間を僅かに踏み止まつて奮闘せる武士の俤とも見るべく、殊に雄々しくも心地よきものである。されば昔より菊花は節操高き花と賞せられ、彼の梅花が嚴冬に屈せず、雪中に蕾を綻ばす氣節と並び稱せらるゝも、素より當然の次第である斯るが故に、然らば菊花は節操の徴象であるだらうと思はるゝのであるが、否々然らず、菊花の節操高きを稱し出したのは、餘程後世のことで、德川幕府の漢學隆盛時代に、漢學者どもが支那から之を受賣したのか、又は自分達が思ひついたのか、頻りに菊花は萬花の殿軍であるとか、殿として霜に驕るとか云ひ囃して、天晴れ節操高き花、換言すれば武士道の徴象とも思はるゝやうにして了つたのである。然しながら之は極めて最近の思想で、其れよりズツと昔は、菊花は決して武士道の徴象とは思つて居なかつたのである。

△古來は延壽の徴象

それでは菊花は何んな意味の花であるかと云ふに、平安朝の最初、即ち我が國に於て菊花を賞で始めた頃は、菊花は延壽の花である、殊にお目出度い花であるとしてゐたのである。決して後世のやうに武士道の徴象としては夢にも思つてゐなかつたのである。其んなら何故菊花を延壽の花としてゐたのであるか、何故お目出度い花としてゐたのであるか、其れに就ては、茲に重陽の宴の故事來歴を話さればならない。

△昔し南陽縣の菊花

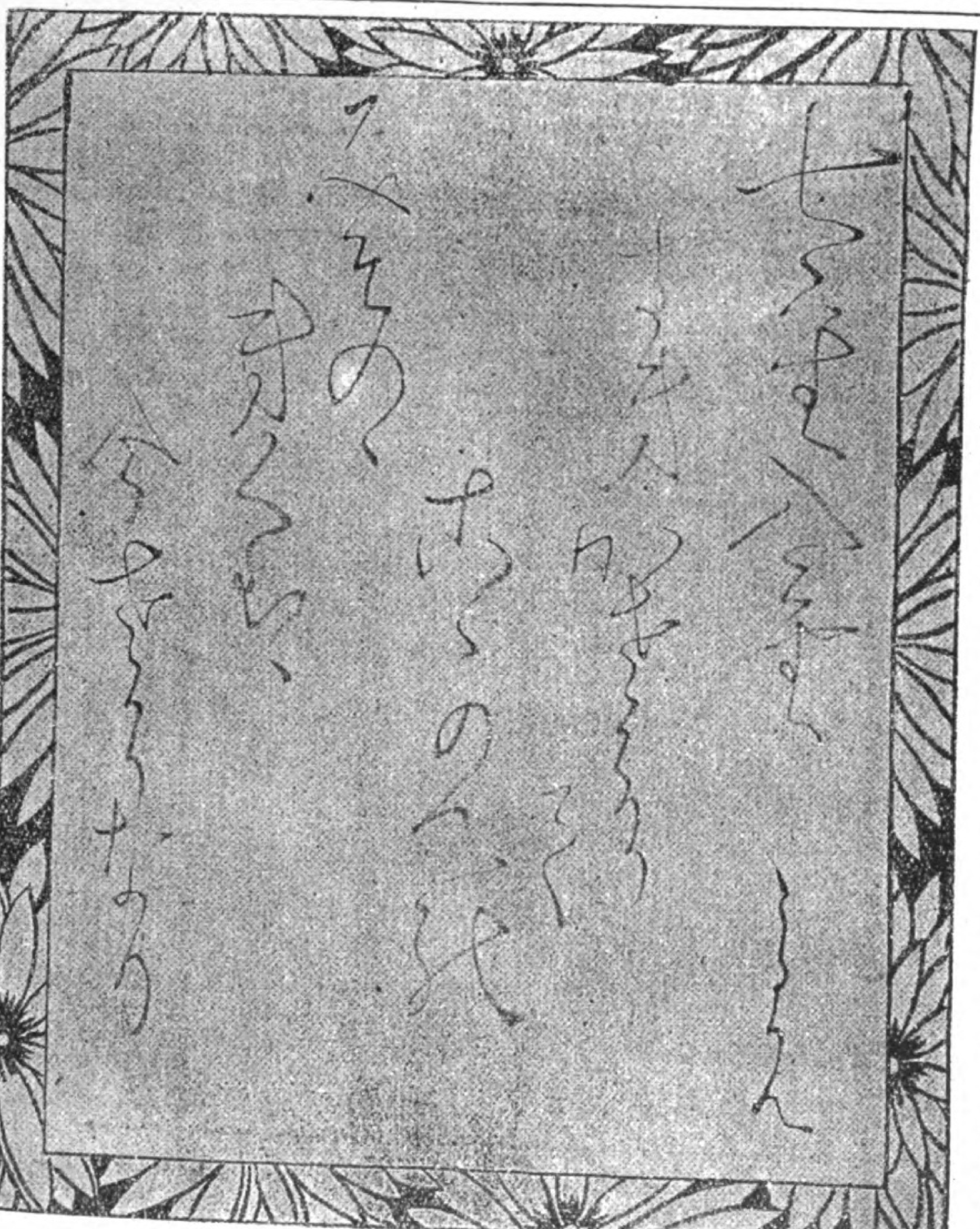
今でも九月九日は菊の節句と云はれてゐる。勿論三月三日の桃の節句や、五月五日の菖蒲の節句のやうに民間に遍く行はれてはゐないけれど、「九月九日は菊の節句」と云ふことは何人の頭にも殘つてゐる。此の九月九日の菊の節句は、之を重陽の節會と云つて、昔は宮中でも大切なお儀式の中の一に數へられてゐたのである。抑も此の重陽の節句の緣起はと云ふのに、支那の故事に斯う云ふことが稱へられてゐる。昔し南陽縣の甘谷と云ふ溪に菊花が澤山咲いてゐて、其の花が溪に落つる故か、其處の溪水は大層甘く、而も此の溪水を飮むと奇妙なことには身體が壯健になり、長壽をするさうである。其中で最も長壽するものは二千歳も生きることが出來、中位のものでも八百歳位は生きることが出來る。現に彭祖と云ふ人は此溪水を飮んだばかりに八百歳も長壽して、而も其顏色は十七八歳の少年のやうであつたさうである。又汝南と云ふ處に住んでゐた桓景と云ふ人が費長房と云ふ人のお弟子になつていろ〳〵學問してゐた時、或日、費長房が桓景に向つて云ふのに、九月九日に汝の家に俄かに災が起るに違ひない。之を避けるには其の日に家を出て、高臺へ登り、袋を造つて茱萸を盛り、之を臂にかけて菊花の酒を飮むが宜しいとのことに、桓景も驚いて、九月九日に其の通りにして見たら、果して其日に家に飼つてゐた鷄や犬や牛や羊が一時に死んで了つたので、此事を費長房に話すと、其長房の云ふのに、汝は幸ひに災を免れたのであるが、其の代り鷄や犬が其の身代になつたのであると答へたさうである。此等の故事が日本へ傳はつて來て、平安朝の始めに宮中に重陽の節會が起つて來たのである、此の重陽の節會のお儀式に就ては、公事根源、其の他精しく記した書籍があるから之は略すとして、更に平安朝以前に遡つて當時に於ける菊花は抑も如何なるものであつたかと云ふことを述べて見やう。

△「楚辭に梅なく萬葉に菊なし」

日本最古の歌集萬葉集を繙いて見ても、菊の歌は一首も見當らない、菊の花と云へば我が國に於ける梅、櫻に次での主なる花である。其れが當時の歌集に載つて居らないのは如何いふ次第であるのか。當時、菊の花が日本に無かつたのであるのか、其れとも其の價値を知らなかつたのであるのか、何れにしても萬葉集に載つて居ないことだけは確かである。諺にも「楚辭に梅なく萬葉に菊なし」と云つてゐる。楚辭と云へば、楚の屈原が著はした有名な文集である。其れと同じやうに萬葉集には菊花の歌が載つてゐない。後水尾天皇の御製に「ならのはの撰みにもれし菊の花殘れる梅の悔みやはある」とあるも、誠に其の通りである。

△未だ其趣味を知らず

萬葉集に菊花の歌が載つて居ないからと云つて直ちに其頃は日本に菊花が無かつたのだと早合點する譯にはゆかない。當時、萬葉集には載つてゐないけれども、矢張其頃の詩集懷風藻には菊のことが多く載つてゐる。或は菊風と云ひ、或は菊酒と云ひ或は菊氣と云ひ、或は浮菊と云ひ、或は菊浦と云ふなど、隨分菊花に就て述べられてあるが、多くは是れ支那の思想を其のまゝに賦したものに止まつて、果して當時、支那人が菊花の趣味を味つた如く、日本人も其の趣味を知つてゐたるや否や、餘程覺束ない次第である。支那人が無暗に菊花を賞讃するものだから、日本人もツイ其れに引かされて、鸚鵡の他人眞似をしたのではあるまいか。萬葉集の如き日本固有の歌集に菊花の歌なく、懷風藻の如き支那模倣の詩に隨分菊花が詠ぜられてあるは、一寸面白い對稱である。



文學博士　物集高見氏作

△昔の菊花は藤袴

菊はキク、音があつて、訓がない、之を以て見ても無論支那から渡來したものに違ひない。併し、其れは今日我等が愛づる美しい立派な菊花のことで、日本には日本固有の菊花が野山に咲き亂れてゐたのだらうと思はれる。即ち日本には日本固有の菊花があつた處へ、支那固有の極めて瑰麗なる菊花が彼國から渡つて來たものに違ひない。日本固有の菊花とは、例へば野菊、龍腦菊、甘菊等の類で、此等は自から山野に咲き亂れてゐたのであるが、此等の花は到底今日の菊花の如く美しくないので、人の注目を引くほどのものでなかつたのである。茲に一説として一寸記して置くのは、秋の七草の一なる藤袴とは此等の菊のことであるとの説である。此の説を述べたのは有名な國學者藤井高尙氏で、其の説に曰く、山上憶良の秋の七草の歌は、「はぎの花尾花葛花なでしこの花をみなへし又藤袴あさがほの花」とあつて、朝顏とは桔梗のこと、藤袴とは菊のことである。これでこそ秋の野の主なる花は數へ盡せるのである。菊の花を洩らしては甚しき粗漏である。秋の七草の中で菊は決して洩すべき筈でないとのことである。藤井高尙氏の此の説は果して如何なるものか、唯だ一説として識して置く。

△菊花の全盛時代

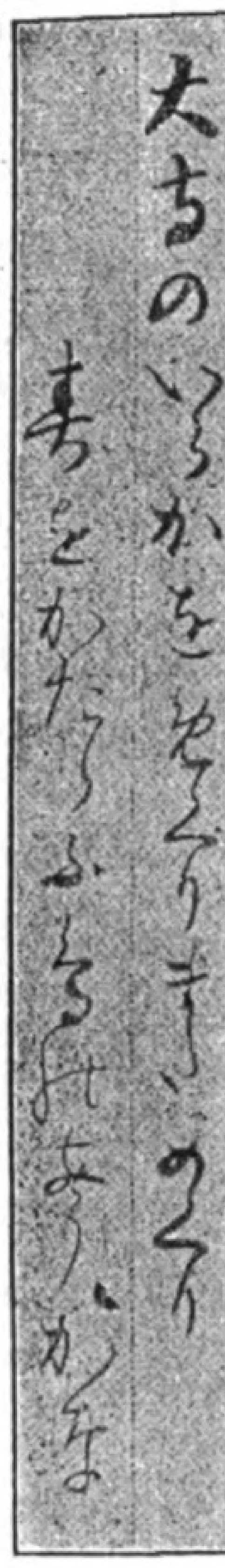
野菊、甘菊、龍腦菊等の菊花が原野に咲き亂れてゐたけれども、其れは素より餘り注目するほどでなかつた處に、支那から實に立派な瑰麗な菊花が輸入されて來た。之と共に菊花に就ての目出度い故事來歴まで傳はつて來たので、奈良朝から平安朝へかけて、菊花の全盛なとは一通りではなかつた。今でこそ櫻花が日本の花の王のやうに言はれてゐるが、當時は一も二も支那崇拜の時代であつたから、菊花の持て囃されたことは實に一通りでなかつた。忽ちの内に重陽の節會が宮中にて行はせらるゝやうになる。次で殘菊の宴が行はせらるゝやうになる。菊合せが行はせらるゝやうになる。イヤ誠に全盛の極である。茲に一寸述べて置くのは殘菊の宴のことである。九月九日の重陽の節會は前にも述べたやうな故事來歴から宮中で菊花の節會を行はせらるゝのであるが、抑も菊花は萬花の中最も遲れて咲くもので、此の花の後には、モウ別に花がない。殊に名殘り惜しい次第である。此の名殘り惜しく思はれてる時に、白菊の花が霜に褪せて聊か紅色を呈して來るのが亦た一寸面白いものである。此に於て此の紅色を帶びた白菊の花を賞するために、態々毎年十月五日に、殘菊の宴と云ふのが宮中に催さるゝやうになつたのである。

△日本は白菊、支那は黄菊

同じく支那から輸入されて來たのであるが、日本では黄菊よりも白菊を貴んで居た。之に反して本家本元の支那では黄菊の方を正しいものとして、黄菊、黄花など、稱してゐた。日本で菊花を非常に愛してゐたのは、仁明天皇、菅原道眞等であらう。仁明天皇は殊の外黄菊を愛し給ひ、わざ〳〵宣旨を下して一本菊を求め給ひしかば、世の人々我れも我れもと一本菊を培養したことは、無名抄といふ書籍にさへ載つてゐるのである。又菅原道眞が菊花を愛したことは一寸人が知らないけれど、梅花を愛するより、更に其れ以上に菊花を愛でたことは事實である。彼の太宰府へ左遷せられた時、「去年今夜侍清涼、秋思詩篇獨斷腸、恩賜御衣今在此、捧持毎日拜餘香」と詠じたのは、昨年の重陽の節會を思ひ出した吟詠であり、其の他白菊を詠じた詩が菅公の詩文中に隨分多く見うけらるるのである。

（以下第二面第五段へつゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



歌がたり　佐々木雪子

歌と歌の書

小春日和の麗らかな日の午下り、竹柏園主人の夫人に刺を通じて、樓上の應接室に導かれると、折柄外出の要事を控へて居られたにも係らず、夫人は快よく御話なして下さる。然し萬事に慣しい夫人は「家庭の仕事に追はれまして歌なども近頃はさつぱり詠めませんしそれに只時々集まる方々の御話を聞き囓つて居る位ですから、別にこれと云つてまとまつた御話を申上ることは出來ませんが」と逃げを打つて、後を信綱大人に任せられた。

私共、歌よみとしての立場から申上ると萬葉では山上憶良、新古今で西行などの歌を敬重するので厶いますが、一般の御婦人方は矢張り萬葉集や古今集なぞを讀み、近世では眞淵、香樹といふ樣な人の家集が宜からうと存じます。香樹の門下で、今の柳原伯爵の四五代前の末光氏の夫人に、やす子といふ方が居りましたこの方の家集は、桂芳園遺草と申して、續歌學全書の中にも入つて居りますから一度は見て置いて宜しからうと思ひます

それから矢張り香樹の門下で、野村望東尼と云ふ方が厶います。

この人の歌は桂園門下家集の中に厶いますが、これは今單行本が出て居りません。しかし三宅花圃女史の編れた「もとのしづく」と申すのが、二冊厶いまして之をよめば大抵望東尼の歌は判ります。やす子、望東尼、孰れも同時代の婦人で、同じく香樹に師事し乍ら、彼の安政の大地震に際して、二人の詠んだ歌を比べて見ますと、二人の性情は直ぐに判斷することが出來ます。

やす子は

動きなきものと思へど天地の頼みがたくもなりにけるかな

と詠み望東尼は

たいらけき道失へる世の中を
ゆり改めむあめつちのわざ

と詠んで居ります。

勿論二人の境遇も性情も異うのでは厶いますが、同時代同人を師としながら、前者は優婉でかよわい、女心を克く云ひ現はして居ますし、後者は女乍らも國家を思ふ一片の眞心が汪溢して居ります、そして孰れも成功した立派な歌の體を成して居ります。

結句いづれも自分の性質に合つた歌を詠むから成功した歌が出來たので厶います。ですから此れから歌を詠まうと云ふ方々は矢張り自分の性情に適した歌を詠むやうに心掛ける事が大切です。自分の敬愛する人が斯う云ふ歌をよんだから、私も然樣云ふ歌を詠まうなど〻、徒らに形式に囚はれるやうでは駄目です。

要するに自分の眞の心から出た、自然の情調を、三十一文字に現さうと努める覺悟で志せば、先づ以て邪路に蹈入る樣な憂ひも尠ない事と存じます。

竹柏園主人と夫人との交々の御話は夫から夫へと渡つて、山の泉のやう、酌めども盡きず、筆を執つても到底記き盡せない。さりとて誌面には限りもある。でお暇をする時に戴いた最近のお歌を左に掲げて此項を結ぶ。

○　雪子

大寺のいらかをめぐりまためぐり春をかたらふ鳥のこゑかな

子らつれて海に行く道の小松原なでしこ咲けりかなたこなたに

○　信綱

五月雨のはれまの夕日花やかに照せる岡の白百合の花

北伊勢は能褒野にちかき驛路の眞萩匂し家ぞ戀しき

操てふ詞はあれど寶石の小さなるにしなほ如かずけり

東洋の婦人

世界の婦人

同じ東洋の、殊には我が隣國の支那のことは好く解つて居るやうで、仲々解らぬことが御座います。此談話をなさつた法貴女史は前に第三高等女學校の教諭を勤められ、其後北京某學堂に聘せられ、目今は山脇高等女學校に教鞭を執られて居る方で御座います。

支那の婦人

山脇高等女學校教師　法貴すゑ子

▽身たしなみ好き支那の婦人

支那婦人は身たしなみよき婦人であります。上流下流の別なく髮の毛一筋亂さず、中流以上の人は毎日化粧して居ります。白粉を眞白に、それは日本などにては見られぬほど眞白に塗つて頰には紅をさします、それも自然らしくにとはなく、眞紅に日の丸二つ並べたやうにするのです。髮を結ひ化粧をするに毎朝十一時までを費すさうです。衣服は大抵の人は淺黃のキヤラコを常服とし、上流の人までも隨分用ひるさうです。これ一の美風ではありますまいか。家内用の衣服は一の勞働着を用ひまして、日本人の如く、家に在りても絹布を纏はざれば恥とするが如き風習とは大に異つて居ります。故に女學校などにて服裝を定むるにも、極めて容易でありまして、服裝は淺黃のキヤラコといへば、全校一人の違犯者も御座いません。これ一國の經濟上大なる利益ではありませんか。

支那北京婦人の一團

▽交際上手の支那婦人

支那婦人は非常に交際上手であります話上手であります。相手に不快の感覺を起さしむるやうな事は決して御座いません。いつも快活に陽氣に談話します。日常は深窓の下に垂れこめて、男子とは全く面を合はせず。外出も妄りにせぬ支那婦人の事としては、誰しも豫想外に思ふ所であります。顧ふに之は大家族制度與りて力あることならんと信じます。即ち支那にては、子が嫁を娶りても分家せず父の家に住み、兄弟數人ありて各嫁を迎ふるも別れず、同一の家に住むを以て美風として居ります。姑との關係、兄弟及び其妻との關係、それらの子供等、それらの召使等との關係等中々容易ではありません。此の如く複雜なる大家族の中に生活する間に、知らず識らず涵養せられたる結果此に至つたものと思はれます。

嫁は、姑の前にては、腰を掛くる事すら出來ずして立ち通しであります。煙草に火をつけ茶を注いですゝむる等、側より見てさぞ氣骨の折るゝことならんと、氣の毒な程であります。又支那婦人が男子に顏を合はせぬ事につきて、最も困るのは醫師なさうであります。日本の醫師は、賴まれて行くは行くものゝ、肝心の病人には、手を觸れさせぬのみか顏さへ見せぬものがあります。その室内は勿論、召使も婦人のみであります。次の間より外の召使が内に向つて容體を聞くと間の障子を隔てゝ斯樣〳〵と返答して、それを醫師に通ずるといふ風で、餘程開化した人は、脈位ゐは取らするも、聽診器は決して當てさせぬさうです。

△上流社會と下流社會

上流の家には、各料理人を雇ひ置きて、食物の調理一切を掌らしむれども、下流社會にては、自ら煮燒きせず、悉く調理したるものを買ふて飲食します。これ彼地にては、樹木乏しきため、燃料として薪を用ふることなく、石炭の粉と灰とを混せて造りたる煤球といふものを用ひ、其價も不廉なるためであります。從つて此等飲食物の賣り物非常に多く、日夜絶えず往來して居ます。支那饅頭、粥うどん、樣々に調理されたる豚肉、味つけたる野菜等、日常の食事に必要なるものは、すべて備はらざるものなく、朝は未明より夜は十二時過ぎまで大聲にて呼び歩き、濃い化粧に花簪ゆら〳〵ととりつくろへる女房も、大茶碗抱へてうどんの立食を爲し、辮髮美はしく組下げ、服裝卑しからぬ大人も、ポツポと湯氣立てゝ黃金色せるおさいに舌皷打つて居ります。父も母も他の家に雇はれて、幼き子供等のみ、留守居して居りましても、只金錢を與へて置けば、三度の食事に事缺くことは更にありません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の一日

棚橋絢子

現今の婦人界に其の名を知られて居る方々は、如何にして一日を過さるゝか、これ讀者諸姉と共に記者の知りたいと思ふ處である。そこで新たに、あらゆる階級にわたつて、訪問を初めました。イの一番に棚橋先生を御訪れ致したのであります。若し拙き筆の話された方の精神を誤ることなく、思ふ通り諸家の一日を巧く寫すことが出來れば、記者の滿足とする所で御座います。その爲め烏渡……（千葉生）

健康と氣の揃ふとが樂み

私共では家内中、皆互に讓り合つて行くやうに致して居ります。また各自の爲す可きことは、誰に云はれないでも歷然と自分のするだけのことは濟まして、それから自分の用をするやうに致して居ります。悴は學校の方がなか〳〵急しいので、其方を熱心にやつて居ります、また私も學校の方が御座いますから、人さまの思つたよりはいろ〳〵な用がありますから殊更に娛樂のことを考へるなんと云ふやうなことは御座いませぬ。只もう家内中が皆健康であるのが、それが一番なによりの娛みであります、また子供の大きくなりますのを誠に樂みに致して、こゝ十年も經ちましたならば等とそんなことを思ひまして、私は娛むで居ります。何事をするにつけても、家内中が氣を揃えてすることが、何よりの愉快であり、且つそれ程娛しいことはなからうと思ひます。

私の子供の育て方

それから大切なのは、子女の家庭に於ける敎育で御座います。これは誠に大事なことでありまして、家庭に於て恐らく婦人の最も重い勤めであると申してよからうと思ひます。私共では子供がなにか惡戲をして、お止めなさいと云つても、若し云ふ言をきゝませぬ時には行く末のためになりませぬから、その時には處罰をします。處罰をすると申しましても、打つたり等は決して致しませぬ。帶かなにかで傷のつきませぬやうにぐる〳〵と縛りまして、そして押入の中に入れて、いくら泣きましても放つて置きます。子供が自分に惡かつたと云ふことを自覺して謝まるまでは放つたらかして置きます。その中には泣き止みまして、自分の惡かつたと云ふことは、いくら子供でも解りますから、さうして子供が謝まれば、はじめて許してやります。それまでは決してどんなに泣いても許しませぬ。よくそんな時には、他家樣では女中とか、又他の者が謝まつてやります。つまりさう云ふ謝まり役みたいな者がありますが、私共では決してさういふことは一切させませぬ。よく女中にも申しつけてありますから、女中もそんな時にはまた決して口を出しませぬ。そうしてまた嫁なら嫁が子供を押入の中に入れました時は決して他の者は出してやりませぬ。誰が入れましても其入れた者が出してやることに定めて居ります。又子供が暴れて、嫁一人で云ふことをきゝませぬ時は、私も行つて手傳つてやります。寔に子供ほど育て方の六ケ敷ものは御座いませぬ。そのやりやうによりましては、どのやうにでもなる者でありますから、餘程よく注意をしなければなりませぬ。家庭に於ての母親の感化と云ふものは、何歲になりましても容易に拔けるものではありませぬ。又學校へ行つて如何によい先生の敎を受けましても、若し家庭が惡ければそれはなんにもなりませぬ。隨分中流以上の家庭には大切な子供の敎育を人に一任せてしまつて、餘り注意をなさらない方があるやうに思ひますが、それは誠に悲しむ可きことゝ考へます。子供は幼少い時分にちやんと育てゝ置きますれば、いくら大人になつたからと申しましても、幼少い時に母親から受けた感化と云ふものはなか〳〵拔けるものではありませぬ。それですから子供の敎育ほど大切なことは御座いませぬ。

さきしより日數はあまた過しかとうつろふへくも見へぬ菊かな

夜と夏とを何う過すか

夜分で御座いますか。

夜分は、これと云ふ仕事は致しませぬ。書見を致しましたり、またいろ〳〵の雜誌が讀み切れない程ありますから、それを見ましたり、書面を認めたり、自分の衣服の綻やまた直す所等があれば直したり、日記を記したり、そんなことを致して居ります。

避暑で御座いますか。私はさう云ふことは大嫌ひであります。人さまによりましては、さう云ふ事をなさるのを大變に誇りになさるやうなお方があるやうに思ひますが、私は避暑も亦避寒にも行くやうなことは絕對的に致しませぬ。まあ身體でも病氣であるとか、又は用事でもありますれば、それは行かんことも御座いませぬが、夏は何處に行つても熱いに定まつて居ります、又冬も同じことで何處に行つたからとて、さう違ふものではありませぬ。心を鎭めて本でも見て居りますれば、家に居られない等と云ふやうなことはありませぬ。庭先きに水でもうち、又植木に水をやつたりして、四方を明けはなして、其中でぢつと本でも見て居りますれば、夏もそんなに人の騷ぐやうに熱いものではないと思ひます。

私は嗜好はなにも御座いませぬ。

私の嗜好と日暮し

音樂ですか。何うも音樂も餘り好きませぬ。茶は些は致します。まあ人さまの前へ參りましても恥をかゝない位のことであります。花も餘り致しませぬから隨つて又さう云ふ、音樂とか、お茶とか或は花に致しましても趣味を持ちませぬ。と、申しますのは、自分が外のことのために追れて居りますから、つい自然に遠くなつた爲だらうと思ひます。

私は道樂は、ほんとに何にもありませぬ。芝居も亦寄席にも參つたことは御座いませぬ。私共の家では嫁も芝居見物になぞは行つたことはありますまい。また、ついぞ子供等も芝居に行き度なぞと申したことはありませぬ。何う云ふものか、私はあゝ云ふものは餘り好きませぬ。

運動は極く大切なことでありますが、併し私は態々何處に行くと云ふことはありませぬ。學校に參りますからして、私にはこれが誠によい運動になります

又日曜日であるからと云つて別に樂しひとは思ひませぬ。平日と同じでありますが、學校の方が休みであるから、大抵日曜にはちよい〳〵用も御座いますから外に出ます。またよく會等があつて、其方に出席を致すことがあります。何も別に用もない時は家で本を讀だり、又縫物等をして、自分の好きなやうに致して居ります。

私の好きな書物

書物ですか。小說本は一向讀みませぬ。が……經書は誠に味がありまして、一節讀みましても、なか〳〵その中に味が含まれて居る。即ち文字の上に表はれて居ない所に實に深い味がありま す。書籍はいろ〳〵讀みますが、私の好きなものと申しましては、『採根譚』が好きで御座います。あの中にはなか〳〵益になる事が澤山あり、又面白う御座いますから側に始終置いてあります。それから『五種遺規』と云ふ本があります。これは五冊になつて居りまして、敎女遺規、養正遺規、訓俗遺規、從政遺規、訓俗遺規補編のこう五つに分れて居ります。その中の敎女の編は女のことに關したことがありまして、大變よい本であります。

私は最もこれが好きで御座います。中には隨分六ケ敷熟字等が御座いますが、解らん所は其儘に致してずん〳〵讀みます。さうして後でその解らなかつた所は調べたり致します。それから、『田舍莊子』これはまたいろ〳〵な面白い譬へ話が澤山ありましてなか〳〵ためになる本で御座います。まあ一寸云つて見れば、雀が海に入つて蛤になつたとか、さう云ふやうなことが澤山あつて、雀の中は雀の氣分で居るが、蛤になれば、もと自分がなんであつたかと云ふやうなことは忘れて仕舞ふと云ふやうな、精神上のこと、いろ〳〵なことで表はして書てある誠に面白いものであります。それから『小學』も好きでありますからよく見ます、また『姬鑑』と申すものがもありますが、これもなか〳〵よい本であつて是非一度は讀むでよいと考へます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▶秋の散歩◀

雲白く、水青し、
紅葉に、さすや夕日た、そのまゝに。
文に作らむ、畫にかゝむ、
空高く、心も清し。
あはれこの、秋日和、
山に野に、我が行く所、
なべて生きたる、學びの庭。
……樂しや行かむ、君も我も。
……嬉しや行かむ、今日も明日も。

浮世眼鏡

巴里の本場で學ばれたピアニスト
日本とは勝手の違ふ樂堂
あのお若さにお心は音樂禪尼

神戸絢子女史

これも者の字の付く一人の音樂者佛蘭西の首都巴里から歸られ、現今は東京音樂學校の教師として令名世に洽き神戸絢子女史をお訪いたしました。無論、變化の多い浮世さま〴〵を、一視平等に覗いて見る、この浮世鏡眼のうちに入れて、愛讀諸姉の何ぞの御參考に致したいと思ひましたので。

▲音樂に滿たされた空氣

音樂者の周圍には、何時も音樂の空氣が取り卷いて居ります。

神戸絢子女史はピアノの名手であらつしやいます。新進でこそあれ、樂界で重きを致して居られる神戸ピアニストの淡泊と飾られた日本式のお室の裡には、何處となく、神韻漂渺たるピアノの音が滿ち渡つて居るやうに思はれました。

神戸女史は物語られました。

「唯々、私は巴里に二年居りました。入學つて居りましたのはコンセルヴアトール……彼國の官立音樂學校で御座いました。その二ケ年の間で御座いますか唯だ最早ピアノにばかり一三昧になつて居りました。

「巴里で特別に、私の心を慰めたものとては御座いません。苦んだのも音樂、樂んだのも音樂……何しろ、この官立音樂學校にでも這入つて居らるゝ人々は皆な立派な素養のある方ばかりなのですから、日本から彼地へ參りたては、何うかして、斯う云ふ人々と肩を並べたいものと隨分、焦心り、骨を折りました。」

▲羨ましきは音樂者の心

「何に致せ、彼國は大層音樂が發達致して居りますから、普通の家庭のお孃さんでも、ヴァイオリンならヴァイオリンを、ピアノならピアノを、日本に居る鳥渡した其の路の人も及ばぬ程上手に彈かれるのです。ですから此官立音樂學校にでも這入つて、本式に、專門に音樂を學ばふと云ふ人は、最早立派な素養のある方と云つても宜しいのです。

「官立音樂學校ですか、我國の東京音樂學校と違つて、皆な專門に習ふやうになつて居りまして、ピアノを修行するものはピアノばかりに一三昧になつて居ると云ふ狀况なのです。そして、他の課目を學ぶと云ふ必要は御座いません、ですから、自修時間も充分あるやうでは御座いますが、それでも、私なぞには未だ未だ自修時間が不足のやうに思はれたので御座います。

「音樂會で御座いますか。每晩のやうに巴里の市中幾個處かで御座います。場處ですか。場處は——日本とは違つて彼國の樂器製造處には大概附屬の音樂堂が附いて居りますから、其處で致します、樂堂の構造ですか。彼のやうに立派なのは、日本には御座いません。ですから、比較をして申上げる譯には參りません。」

絢子女史のお話は何處までも、音樂と云ふ範圍から外には出でぬ。成る程、音樂の空氣で包まれたお方と思はれました。また、これ程までに、心を音樂一三昧に向けて居られる方でなければ、苟且にも一流の音樂者にはなれぬことゝ思はれました。

神戸女史は未だお若いお方であります。發展遊はさるゝのは之れからと思はれます。此お若さに、その心は音樂禪尼とでも申しませうか。

心、三昧に藝術の堂に遊ばるゝ方は、羨しいお方であります、尊敬すべきお方であります。

米國土産

男爵夫人 瓜生繁子

近く御主人の海軍中將と御一緒にお歸り遊ばした瓜生男爵夫人の御講演を伺ひました。大層有益で面白く思はれましたので此處に

△船中の樂しみ 私が横濱を出發致しましたのは五月五日で東洋汽船會社の日本丸に乘込みました。日本丸は餘り大きな船ではありませぬが、上等船客として五十六名の合客で、其れには獨乙人、英國人、亞米利加人、支那人と各國の人々で互に親しく交通致しまして、種々の餘興遊戲に十一日間の航海は實に愉快に終りました。殊に仕合せには、一日も荒れ日がなくつて何よりと存じました。其餘興の中で活動寫眞がありましたが、多くは日本の名所舊跡と日露戰爭で現はるゝ元帥大將のお名前や、其の名所を一々明瞭に知つて居らるゝのには、如何に外國のお方が日本の美術風俗人情に就いて研究の深い事かと驚きました。

△花の布哇 十一日目に布哇ホノルヽに着きましたが、先づ第一に驚いたのは、自働車で日本の人力車の樣に何臺も自由自在に街の中を往來致しますこと恰も飛蝶の樣なのにも拘らず、少しも危險な事がありませんことで、其技手の熟練なのには感心致しました。ホノルヽには日本人が多くて故郷に歸つた心地が致しました。宿なども日本室で、御飯も日本食でした。布哇は米領になつて日が淺いにも拘らず、道路家屋の整然として草木は靑靑として茂り、花などは春夏秋冬四季の者が揃つて咲いて居ります。

△三百人の名を記憶す 桑港では此頃球投の遊技が、盛んでありまして、老人、小兒までが皆熱心でございます。此の桑港の歡迎會にお集りになつた球技俱樂部の會員は三百人でありましたが、私に一一會長からの御紹介がありまして、私は二時間半の握手續きで、少しく勞れましたが會長は少しの勞れた樣子もなく、會員の名前を一員殘らず紹介された會長の記憶には驚きました。概して米國婦人方の招待振りは、眞に人を歡迎する意に叶ふて歡迎された客は眞に歡ばしく感せられます。例へば迎へた客の私には殆んど口を開かせないで、先方で代る〴〵日本は好い國だ、私も日本に往つた事があるとか云ふやうに、其狀は歡迎と云ふ眞心を表はして居るのに感じ入りました。

△滊車の裡が住居と同樣 桑港から紐育へ參ります日にはハリマン氏から特別列車を仕立てゝ貰ひましたが、此の滊車は日本のとは違つて中が廣く、總て滊車の中で用の達せる樣になつて居り、車内に寢床も食堂もあり、又繼目なしの硝子張りで左右の風光を觀めるに好都合に出來て居ます。紐育ではトムソン氏から特別列車の用意がありまして、華盛頓アナポリスなど、滊車で五六時間もかゝる地へ歡迎されましたが、晝餐と夕餐は十里を隔てた處で食べる有樣でした。滊車中では睡眠も出來る樣にしてありまして、少しも勞れない樣に接待してあります。或朝でした。眠から覺めて、疾に目的地に着いて居る時間と思ひますのに滊車は矢張り走つて居ります。餘り不思議でありますから、時間を問ひますと、滊車は先刻着いて居ますが停車するとお眼覺めになるから往たり來たりして居たのだと云はれ驚きました。

△旅情を慰むるに懇切 多くの歡迎會の中では、日本語で歡迎の辭を述べました處もあり、料理にも日本の名物又は日本軍艦を菓子で造り、それに電氣燈を點けるなど旅情を慰むるに實に懇切で、眞に感謝致しました。其他滊車中でも、髮が亂るれば髮結ひが控へて居りますし、滊車の停車中一寸市中見物をすれば自働車があると云ふやうです。米國人はこんな物質的の上ばかりでなく、總て、歡迎會場内へ臨む人は、皆さんが喜ばしい色を滿面に湛へて、客を始終愉快に接待される狀は、實に私等の手本とすべき事だと感服致しました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

逆境に立てる夫婦

次のお話は前田博士が上宮教會で述べられたお話の眞の一部分であります。が、このお話を伺つて誠に深く感じました。一度は立派な生活をした人が、他人の爲めに不幸な目に出逢つても心のうちから夫れを苦にせぬ夫、また、その夫にまめ〳〵しく事へて、夫を慰さめ、苦勢を共にする妻なる人。共々に世にも有難い心がけの人々ではありませぬか。私は此お話を伺ひまして、その方の心がけに感ずると共に、その成功の一日も早からんことを、影ながら祈て居るので御座います。（千葉生）

生きた實例

文學博士　前田慧雲

初めて逢つた舊い知人

私は此暑中に、北海道の方に參りました、彼方は御承知の如く別に珍らしい處でもありませぬが、私が巡回致して居ります間に種々な事もありましたが、其中私の最も深く感じたことがあります。

八月の末頃に札幌に參りまして、六日間程講話を致しました、その時に停車場に着きますと、多勢出迎ひに來て居りました。が、その人々の中に、つい見たことのない立派な紳士が一人居りまして、私に名刺を出して、私は兼て先生の救ひに與かつた者であります、今日御出になると云ふことを新聞の上で拜見致しましたからお迎ひに出ました。と、斯う云ふのであるが、私はどう考へて見ても解らない、又そんな人に逢つた覺へもない。どう云う人であるかと思つて居ると、その晩に尋ねて來て申すには、私はこれまで先生に御目にかゝつたことはありませぬが、書籍の上で非常に御恩澤を蒙むりました。私は鮮朝に久しく居りまして、彼地で小間物店を開ひて相當にやつて居りました又彼地に居ります間は所々なことの世話も致し、青年會の幹事等も致して居りました。處が人のために大變災ひを受けました。それは人のために據無く連印を致してやりました爲めに非常な損害を受けましたことで、遂に財産を悉皆人手に渡してしまつて、此地に家内と再びやつて參りました。兼て一度お目にかゝり度と思つて居りました。處が幸に此方においでになると云ふことを新聞で見ましたから心窃かに喜こむで居りました。私は先生の『佛教人生觀』を拜見して、あれで非常に自身は安堵を得ました始めて胸中の平和を得ることが出來ました、誠に有難ことであります。あの書籍は丁度二十二遍程讀みました、今日でも自分の側を離しませぬ、私の家内も先生の『蓮如上人』を日々拜讀致して居ります。と、

こう云ふ話である。敎育もあり立派な紳士であるが、彼地で失敗をして北海道に來ても相當に生活もする人であらうと思つて居つた。すると翌日の朝にも矢張り立派な洋服を着てやつて來た

それから私は師範學校の方に招待を受けて居つたから、師範學校に車に乘つて行くと、其途中でさきの人に出逢ました、何う云ふ風をして居るかと云ふと、半被を着てさうして大きな魚桶を擔いで非常に快活に町の中を飛むで歩いて居る。こりや妙なことをやる男だと思つて驚きましたが、私の講話をする時分には又立派な洋服を着てちやんと來て居る。何時も講話を熱心に聽いて居るが、又家内も立派な人であるそれから又私の處にやつて來ましたから貴方はひどゐことをやる、思ひがけないことをやつて居ると云ふと、その人の云ふには、もう濟むだ事は如何に考へて見ても仕方はありませぬ、其處で私は勞働で一つ自身の事業を恢復をしやうと思ひます。あゝ云ふ事をやつて居りましても誠に愉快であります。私は人間と云ふものは何もこうして居らなければならぬのであゝして居らんければならぬのと定まつたものぢやないと思ひます。

かつ又世間の人の思ふやうに、そんなに勞働と云ふものは卑しいのではありませぬ。縱ひ勞働であらうが、又何んな事でも人に迷惑をかけず、自身が眞直な道を踏んで行けば決して恥づ可きことはないと思ひます。世の中には隨分立派な生活をして居る人の中にも爪彈きをされるやうなことをして居る人も澤山あるやうでありますが、自身の心に安堵を得ましてからは、さう云ふことをしてまでも、自身の身を立てやう等と云ふ氣には何うしてもなれませぬ、さう云ふ譯で私は今度の勞働を始めました譯であります。

輕い心に十八貫の重荷

ところが、あの擔ひで居ります處の桶は十八貫もあります。氷を入れて其上に魚を入れるのでありますから、それはそれはなか〳〵重ふ御座います。私の此身體では迚も擔つて歩けるものではありませぬ。それで迚も靜かに歩いて居てはたまりませぬから、元氣を出して飛で歩けばさほど苦にもならずにやれます。さうして一日の仕事を終へて歸つて來ればもう夜になる、疲れて居りますから御飯をすましますと直ぐに寐て仕舞ひますから胸中に煩悶が起るの、又妄想が起るの、いろ〳〵な空想が起ると云ふやうな餘裕はすつぱりなくなつて仕舞つて誠に心持ちよく休みます。

こう云ふ話を、その人から聽きまして私は深く感じたのであります。只口でさう云へば何でもないやうでありますが、實際それを自身がやると云ふことはなかなか出來んことであつて、誰しもまあ大抵の者は、今までの身分とか、或は地位とか又は世間の手前や、自身は今まではこう生活をして居つた、誰某は自身が使つて居つたとか、いや自身は今までこう云ふ事業をやつて居つたとか、さう云ふことに拘泥して仕舞つてなか〳〵出來るものではない。それがために遂には世の同情も失ひ、又人の信用もなくなつて來る、さうなつて來ると倍々自身の思ふやうにはならなくなる、遂には人に迷惑をかけるやな事にある、さう爲つてからはもう再び自身の頭を擧げると云ふことは容易に出來ない。それを押切つてやると云ふのは、自身の胸中に何か得た所のものがないと、なか〳〵さうは行かん。修養のある人と、ない者とは、こう云ふ場合に立至ると云ふと直に其人の眞價が定まるものである。平常は隨分大きな口をきいて居りながら、いざと云ふことになると凹む者が多い。私は其人の志に深く感じたのであります。

小さな仕事にも大きな希望

ある朝、私が居ります、本願寺の別院に其男が魚の荷を擔いでやつて參りました。すると別院の者は皆喫驚して仕舞つて、やあ――どうも偉いことをやる――の、何のと云つて來見す者や、また不思議の男だと云つて弄ふものがある。すると、いや『治生産業皆順正法』ですからと云つて、勢ひよく荷を擔いで飛むで行つて仕舞つた。これは法華經の中にある句でありまして、その意味は農家ならば、農業と云ふやうに、又商賣ならば、其商賣に一心になつてやつて行くと云ふことであつて、もう己れのして居ることに三昧になつて、決して外の事のために妨たげらるゝやうなことはなく、又自身の我慾のみのためにするやうなことでは、ならぬ、此世の中はさう自身の都合のよいやうにばかり出來て居るのでないから如何なることをするにしても自身と云ふ我慾を退けて仕舞ふて、その業に順つて行くと云ふそれが、即ち佛が法華經の中に說かれた言葉であります。その話を前日私が師範學校で話したのを、此言を覺えて居つて、『治生産業皆順正法』と云つて飛むで行つたのである。實に快活な男である。斯う云ふ風にして一心にやつて行けば必ず成功すると思ふ。乍併其人も段々聽いて見ると、これまでにはいろ〳〵な苦勞もし、又修養の上に就てもなか〳〵自身に工夫もし、又いろ〳〵の人について尋ねたりして、今日に及むだのである。私は其人が今日までの地位や又境遇に少しも拘泥せず、自身の取る可き道はもう此外にはないと信じて、人にも迷惑もかけずに、大なる希望を以て其業に順つて居ると云ふのは實に感心なことであると思ふ。而も自身が人のためにさう云ふ目にあつたにも拘らず、少しも自身の心に煩悶もなく、一日の仕事を終へて安らかに疲れたる身體を休めて、其目的に向つて一歩々々近づきつゝあるはなか〳〵普通の人には出來ない事である自身の心に得た所がなければなか〳〵さうは行くものでない、と思ひました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

伊藤博文公の生涯より學ぶべき生ける教訓

小説のやうだと何人も形容するが、確かに小説以上である。事實は小説よりも面白いと云ふが、自分と同時代に、而も同じ國の華々しい舞臺に、世界の人の注意を惹く程の活動をして居る偉人の生涯ほど、痛切に、同時代の――殊に同じ國の人に、生きた教訓を與へるものは無い。また痛切な興味を與へるものは無い。其の大偉人が、思ひがけも無く、華々しい場所で、華々しい終焉を遂げた。全然小説のやうであるが、悲しい事實である。悲しいが、華々しい事實である。小説以上の生きた興味のある、大教訓の含まれた、悲しい、華々しい事實である。

三條內府、岩倉右府の生涯、西郷南洲横井小楠の生涯、いづれも痛切な生きた教訓を就中同時代の人々に與へた。併し時代は遠慮もなく遷り變る。これ等の人人も、事蹟も、今の世には、遠つ世に生れて死んだ人と思はるゝまでになつた。その當時こそ、さはあれ。追々と敬慕の念は增して來ても、古り行くにつれて、これらの偉人の生涯に對しての痛切な感じは漸次うすらいで行くのは致し方が無い。

波瀾多い華々しい生涯

山陽道は周防國束荷村の片ほとりの見る影も無い藁葺の屋根の下に、一人の百姓の子供として天保十二年の九月二日に此世への初發聲を擧げた林利輔と云ふ嬰兒が、世の風雲に乘じて維新の元勳となり、畏くも上御一人の深く信賴させ給ふ處の國家の柱石となり、韓國に對しては勅命に依つて統監となり、韓國の皇太子に對し奉りては太師となり、その他功勞擧げて數へ難く、從一位大勳位公爵と云ふ、人臣の榮位を極むるまでに立身、出世したと云ふことだけでも、既に華々しい、小説以上の深い興味のある、生ける教訓を含んだ事實である。その事實の日に〳〵發展して行くのを、お互ひに同時代の人として、熱心に痛切な感を抱いて目擊した居たのである。然るに、國家の發展に關し、內密な使命を帶びて、表面は漠然として、單に滿洲視察と云ふことで、唯近時出發された伊藤公爵が、露西亞政府で特に準備した貴賓車に乘つて露國主權の下に在る哈爾賓停車場に着したのは先月二十六日の午前九時。汽車が着くと、兼ねて待受けて居た露國大藏大臣ココウツオフ氏は、公爵を列車內に訪問して談話を交換すること二十分。頓て川上總領事先導して步場に下り、特に公を出迎への爲め整列して居た露國將校、軍隊、世界各國外交團の人々に會釋を終り、更に方向を轉へて馬車のある方に行かうとする剎那、露兵の整列して居る後から突如として現はれた洋裝した朝鮮人刺客の爲めに七連發の拳銃を差向けられた剎那、三發まで命中して、公爵は不幸なる、されど如何にも華々しい所で華々しい最後を遂げられたのである。

肉の伊藤公と靈の伊藤公

これが、伊藤博文公の生涯の極く〳〵簡單な摘錄である。

これだけで見ても、如何にも波瀾の多い生涯である。華々しい生涯である。波瀾の多い、華々しい生涯を終つた時に、公爵は方に六十八歲。公爵の肉の命は六十八年にして終つたのである。しかし、公爵の靈は、その肉の命の終ると共に華しく復活した。世界の人から、世界の大人物、世界の偉人の讃辭は惜し氣も無く、靈の伊藤公の身に注がれた。その讃辭は日を經るにつれて多きを加へられる。而も、公が「一身を捧げて」居られた國家は、公が此不幸なる、されど、華々しい最後に依つて、此事無くしては容易に行ひ難いことを爲し得るの便宜を得たかも知れぬ。さらば、公は肉に於ても靈に於ても、生前も死後も、否、生前よりも死後に於て、より更に、國家に忠節を盡されたものと云ふべきである。此意味に於て、偉人の稱の更に適切に伊藤公に相應しいものと思はる。

耐火粘土製みよしこんろ價卅五錢

本書の讀者は其一國を憂ひらるゝが如く亦一家の利害をも深く顧慮せらるゝ方々なり而して日常の燃料は一家の經濟に多大の關係を有す其便利のみの點に於て瓦斯も可なり其固有の習慣によりては木炭も亦可ならん而も是等の比較に於て其失費の五分の一を以てより以上の利便と效用を得んと欲せば

みよしこんろに瓦斯コークスを用ゆるにあり

之れ即ち讀者諸君が其余剩を以て國家社會に貢獻せらるゝの資を補ふに足らんか本品を推薦するの意亦實に爰に存す

家庭用特撰瓦斯コークス壹俵金四十八錢

製作販賣元 東京九段 みよし組

電話長（番町）三三三番 振替貯金口座（東京）一八七六二番

偉人伊藤公と家庭教育

偉人の生涯には大教訓が伴ふ。偉人伊藤公の最後の報一たび傳へられてより以來、世界の新聞雜誌は、日に月に、公の生涯に關して斷片、零碎をも漏さじと報導して居る。世界の人々亦た、その一つをも讀み漏らさじと先きを競ふて居る。實に斯くの如き偉人の活ける一生は、家庭教育の責に當る人には、格別熟知して置く必要がある。その一生を熟知して、生ける教訓の材料とする必要がある。此意味に於て、偉人伊藤博文公の一生を深く〳〵研究せんことを、特に世の家庭に主婦たる方々にお勸めする。

聖上生れましゝ今日の佳節の誌上の一部に、斯かる悲しむべき偉人終焉の事を傳ふるの止むを得ざるは、如何にも殘念なことである。然れども、在つた事實は如何とも致し方ない。吾人は、公の華々しい最後を思ひ、公の悲しむべき最後が、決して無用の最後で無かつたことを思ふて、僅かに自ら愛讀者姉と共に心を慰むるばかりである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

容貌と其運命

心相學館主　船井梅南談

運命と言へば漠として居て、吾人の目前に横はれる吉凶禍福の現象は頗る神秘なやうであるが、其源を質せば自家精神上の問題に外ならぬのである。昔から賢哲が容貌の修飾を八釜敷云つて居るのも何れも容貌の修飾を勸むると共に之を精神上に及ぼさぬものはない。

元來人間の容貌は其精神狀態に伴ふもので、其容貌によつて運命の如何を判知することが出來る。善良な心意と平和な精神とは光輝ある吉色を呈し、罪惡的心意は暗憺たる凶色を呈し、一として容貌の上に浮き出る氣色によつて、其吉凶禍福を判定せられないものはない。

心相學館主
船井梅南氏

そこで人間の容貌を修飾することは、單にお洒落とか、おめかしとかいふ輕薄な意義ではなく、反映的に精神の美を助長するものであつて、容貌を修飾して美しくすることは、精神の平和と心意の善良とを表示するもので、詰り幸福な運命を開拓し、運命と容貌とを自然に結び付ける方法なのである。

然るに時代の變遷は、この人間自然の理法に反して、徒らに虚飾贅澤に流れ、顏面をペンキ塗のやうに心得て得々として居るものが多くなつて來たので、化粧といふ容貌の修飾は、遂にその本來の意義から遠く隔つたものになつて來たのは獨り化粧のみでなく、人間運命の上に於ても、實に惜むべきことである。

故に予は人の心相を觀ずる每に、圓滿幸福なるべき運命を保つには、精神上の修養に待つべきことを說くと同時に、前述べた容貌と運命との關係理法に遵ひ、面相に光輝あり、手掌の美麗な人は、常に幸福な生涯を送り、面相が枯焦したり、手掌が不潔な人は、常に不幸の運命に泣きつゝある、經驗から徵して運命を開拓して幸福圓滿な生涯を送らうとするものは、其容貌の修飾を怠つてはならぬ、而して容貌の修飾は今の多くの人が信ずる如き虚飾贅澤なものではならぬ、どうしても天然の顏色に光輝を與へて、平和圓滿な幸福の相を備へしむるものでなくてはならぬ、それには現今化粧品界で評判の高い平尾贊平氏發賣の乳白化粧水レートが觀相學上運命の盛な光輝ある相貌を備へしむべき理想的化粧品であると信じ、常に人に勸むるとゝもに、同品が獨り容貌美を發揮する化粧品たるのみでなく、兼て人間の幸運命を助長する品として之を社會に推奬するものである。

雑誌の雑誌

▲家庭は妻は城廓

子爵　加納久宜氏

「婦人畫報」臨時增刊

夫は如何はしい所に足を入れて一人樂み、妻は内證で芝居見物をする子女はそれ〳〵自が好む樂みに耽つたならば、これは家庭の娯樂でなく眞に不幸なる家庭である。家庭は妻に對しては城廓で、夫に對しては慰安所である。己が城廓を立派に圓滿に築き上げるのは妻の務め。己が慰安所を同情と廉潔を以て導くのは夫の役目である。夫妻共々力を盡して、其城廓たり、慰安所たる家庭の圓滿を計るのが、吾人人類の務めではあるまいか。一家の中には波風が立つて妻は夫に不平を持ち、夫また妻に對して不滿の念を抱いてゐたならば、これ人生の一大不幸と謂はねばならぬ。

▲神經から起す夢

ドクトル　富士川游氏

「東京市教育會雑誌」六十二號

人は夢である、夢のやうな話とか、或は夢のやうなことだとか、大層馬鹿にして居られるやうな傾きがあるが、夢といふものはさう一概に馬鹿にすべきものではない。昔聖人に夢は無いといつたが、夫れは間違ひです。夢を見ないのは精神作用の無い人である。精神作用は誰れにもあるが、見ないと云ふのは多數の人が忘れるのです。それで夢は何うして見るか。寢れば見ると云はるゝが、寢ても直ぐには見ない。寢ると晝とは違つて上等の精神の作用が休んで、下等の精神のみが働く。其場合に外から來て身體を突く。皮膚を突くとか身體が物に觸るゝとかする。さうすると夢になる。天氣が變つても夢になる。それは醫者の方では神經を刺戟して起す夢である。

耶馬溪の風景
（此頁に挿める二圖共）

▲組絲用途の今昔

豊原　繁尾子

「女子手藝講義錄」第一號

組絲の術は、遠く神代の頃より行はれて居たものゝ如く、彼の頸や手足などの飾りとした珠玉を貫いた者は必ず組紐であつたらうと思はるゝよしは、和名抄調度部などを見ても推察することが出來るのであります。又太刀の緒などにも之を用ゐたらしく、後には帶取と稱して、專ら之を用ゐたと云ふことであります。其後武士は太刀を帶ぶるに帶取に代へて下緒を用ゐ是亦組紐を用ひたと云ふことであります。今、今日通常使用せらるゝもの〻大略を示しますと、次のやうであります。――羽織紐、帶止、コート被布カツパ類の飾紐、時計紐、袋物類の掛紐、旗總、ヅボン釣、窓掛テーブル掛、椅子、布團等の縁飾、器物類の結紐等。

▲産湯を使はせる注意

加藤醫學博士

「婦人世界」四ノ十三

産湯は、早ければ早いほどよいので、長くとも十分より以上はいけません。そして湯から上げたら、よく身體中の濕氣を拭き取らなければなりません。産湯を使ふ水は、東京ならば水道の水を使へば申分ありませんが、地方では、さういふわけには參りませんから、できるだけ清潔な水を選んで使ふやうにしなければなりません。産湯を使はせる時には、耳の中に水の入らないやうに注意しなければなりません。耳に水の入つたために耳の病氣を起すことは少くありません。

▲誰にでも出來る實驗

後藤　牧太氏

ビールの瓶を立ておき、瓶のうしろの、瓶に近い處に火を點けた蠟燭を置き、瓶の前から吹くと、蠟燭の火が消える。（「少年」七十四號）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嶽草會詠草

○　佐野くに子
ちぎれ雲たかう流れて北多摩のおほ野の秋のゆふぐれさびし

○　但村はつ子
生ける魂の夢にかよひてくろ髪をむすびゆきしがとげがたきかな

○　瀬高やす子
ほのかにも告げたまふかな天地の春ひと時に來むほどのことを

○　山田映子
ふと月にさそはれて出ぬ露小路立木とならぶわが影さむし

○　宇佐美鶴子
風絶えし朝のにはに桐一葉おつるすなはち秋は來にけり

○　衣笠きく子
野分吹く風にみだるゝ千町田の稲穂につどふ小雀のむれ

○　豐江と代子
子等よせて鬼が島など語る夜は身もわかがへり思ほゆるかな

○　中村えい子
物みなはあるかなきかにたそがれて只ゆふがほの花のみ白き

○　鈴木まつ子
此花を二なく愛でにし亡き人のおもかげさへに見ゆる露草

○　後閑らく子
かれ〳〵に蟲こそすだけ胸込の里のゆふべの秋ゆく園に

むかしより聲のほそりてふるさとのやれしかきれに蟲なきしきる

たれならむ萩さく野邊を忍び足むし啼く方へ行く戯れ人は

（廣告）　但村勁子氏の紀行「七日路」の續稿及播野幸子氏の紀行「温泉宿」は、誌面の都合にて孰れも次號に掲載することゝせり。なほ別項にも記載の通り、小生都合に依り客月限り、本誌の編輯を辭したれども、嶽草會の方は多數諸姉の御希望もあれば從來の通り存續す。されば詠草等は從前通りの宛名にて御送附ありたし（神谷生）

新刊紹介

新着書いろ〳〵

□白河樂翁　白河樂翁公の生涯を、人の心の奥までも響くやう、小說の形をかりて、痛切に面白く描いたものである。樂翁公は舊幕時代の偉人である。偉人の生涯には生ける教訓が伴ふ。偉人樂翁公の生涯を痛切に、面白く描いた此書は、如何なる家庭の文庫にも、必ず一冊づつ藏つて置くべき必要があると思ひます。著者は碧瑠璃園。定價は一圓廿錢。日本橋區本石町三丁目至誠堂書店發行

□家庭料理通　これは時事新報文藝週報が懸賞で募集した入選料理を盡く集めたものです。ですから日本全國に亘り、各地方獨得の料理が集められてあります。而も料理使用主材はいろは順で、上手に編纂してありますから、使用にも便利です。その上、本は小形に、體裁はよく、思ひつきの宜い畫が處々に挿んであります。定價は六十五錢。京橋南鍋町時事新報社發行

□人格の鍛錬　偉大の人格、人格と克己力、人格の鍛錬と職業、武士道と雄健の人格、人格と餘裕等の數章に分け、一々實例を上げ、人格の鍛錬について述べたものであります。修養には缺くべからざる好頁の書物と思はれます。定價卅五錢。京橋南紺屋町實業之日本社

□逆境離脫策　前人の生きた實例を多く載せて、青年立志の參考に供するのが、この本の主意らしい。頑父の爲め、貧賤なるが爲め、生れながらに、薄志なるが爲め、弱行の爲め、誘惑の爲めに、驕慢なる爲めに、虚弱なる爲めに、逆境に陷つた古人、先人の實例を擧げて、親切に逆境離脫策が述べてあります。近來の有益な本です。定價一圓發行所實業之日本社

□婦女鑑　これは宮内省藏版にかゝるので、和漢洋を問はず、古今の婦人傳記中から、龜鑑になるやうな人の實例を選み、上品な文章、上品な挿畫を添へて記したものであります。和裝であるのも嬉しく、殊に挿畫の楓湖畫伯であるのは一層嬉しい。名の如く婦人の鑑となる本、一讀する要があります發行所は京橋南傳馬町一丁目十二番地吉川弘文館

□夫妻成功美談　前編には「成功せる結婚」後編には「失敗せる結婚」を集め、發明家、出版業者、パン屋、洋服屋、牛屋、軍人、工業家等の成功美談が記してあります。誠に有益な本で、苦心の著述と思はれます。著者は村上直治郎氏、定價は四十八錢、發行所は麴町飯田四ノ四三東京實用女學校出版部

雜誌の雜誌

▲坊さんの富士登山　「婦人くらぶ」二ノ十一　宮川春美子

或坊さんが富士登山を思ひ立つたのです。けれども、もう五十幾歲といへば年が年だから健康上、實際頂上まで達することが出來るか何うかと心配してゐました。それで醫者に診て貰つたら、万事注意さへして行けば、何も差支はない、大丈夫だと云はれたのです。それで坊さんは大に喜んで、總て手落なく準備を調へて發足ました。そして心の中に、自分はもう老人だから、若い人たちのやうに急いではならない。後になつても仕方はないから、あせらないで、靜かに歩るかうと斯う心を定めてゐました。それで後から〳〵登つて來る澤山の登山者からは追ひ越され追ひ越されしてゐましたけれど、少しも意に留めず、最初の考へ通りに登つてまゐりました。軈て八合目にのぼると頂上がありありと見えます。すると、陽氣に歩いて居た足が俄に變になり小石に乘つて辷つたり、岩角に足を突きかけてつまづいたり、それは〳〵骨が折れて來ました。よく〳〵考へて見ますと、急いではならぬと、自分を誡めておいたのにもかゝはらず、頂上の見えた嬉しさに、あせつてゐたのでありました。私共が何かの目的のために一歩〳〵進んでゆくのは丁度此坊さんの富士登山のやうではあるまいか、頂上が見えてから、早く達したいと思ひ、あせり初めると、忽ちつまづいたり辷つたりすることは、何よりの好い誡めではないかと、つく〳〵さう感じたのであります。

▲皷によりて得たる利益　「婦人世界」臨時增刊　高田博士夫人

皷は古いのに皮のよいのがあるさうですが、皮もその人の手に合ふのと合はないのとがあります。私などは當りの強い方ださうで、軟かな皮ではいけないさうです。私は以前大層身體が弱ふございましたが、小皷を始めましてから、よほど壯健になりました。家でお淺をしますのは、大抵夕飯を食べてからですが、お淺をしてしまいますと、お腹がすくほどでございます皷を打ちますと、下腹に力が入りますし、それに手も働きますから、無論、健康によいに違ひありません。

いろ〳〵

□成女高等女學校　は今年十周年を迎へることになつたに付き、卒業生の人人が發起となり、來る十一月廿三日午後一時から神田の青年會館で音樂會を開き、その收益を擧げて母校第二期計畫資金の一部に寄付するさうです。また同日同校卒業生は同じ會場の一部に慈善市を開き、卒業生の拙を助けるさうです。□帝國女子專門學校　は去る十八日小石川大塚町に新築した校舍の一部が落成したので創立第九回紀念式を開きました。□教育透し繪葉書　神田柳原川岸十一號地の永井三星堂から發賣された透し繪葉書には世界英雄歷史、日本立志傳、お伽のいろ〳〵あり孰れも上手に出來て居ります。尙ほ精巧を極めた風景の水彩畫はがきもあります。いづれも好く出來て居ります。□世界と社會の日誌　これまで每號揭げて參りました日誌は誌面の都合上今度だけ一回休みます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋の姿

大口鯛二選

和歌

天　函館　五十嵐やす子

うぶすなの森の杉むら神さひて中そら高し秋の夜の月

評曰　かう〳〵しきところのさまみゆるやう也

地　三重　日野千鶴子

秋風にうごく鳴子のかけ見えてかと田さやかに月はてらせり

評曰　しづかなる田家の月なつかしげなり

人　東京　望月米子

いさゝ川底のいさごも見ゆるまでさやかにてらす秋の夜の月

評曰　いさごもみゆる川水にうつれる月さこそさやけからめ

甲の部

なか〳〵におそき車もにくからず紅葉見なからのぼる山路は　下野　田村家壽子

鳴子にもなるればなれてむら雀門田のいねをたちもはなれず　山口　末田貞節子

何事をおもふとなしにくれてゆくあきの夕べはわびしかりけり　橫濱　鈴木まつ子

雉子の聲遠くきこゆる山もとを流るゝ水にうつる紅葉　東京　伊矢野孝

こほろぎのまたもわびしくなきいでぬ物思ふ身のねむれざる夜に　橫濱　後閑らく子

秋の雨隅田をくだる舟の帆の寒くうつれる水の色かな　東京　たか子

乙の部

せの君の好める獵も近づきぬ今朝しも庭に百舌鳥の聲きく　東京　土師利根子

御簾もるゝ玉のふえたけ聲すみてつきにふけゆく九重の庭　函館　五十嵐やす子

いたつきの床にある身も思ふかな須磨に月見し去年の秋をば　吳　竹入勇子

行く秋もしら菊黃菊とり〳〵にさき匂ふなり花瓶の中　青森　名久井山子

みわたせばとひもまひつゝあさとてのさむさわするるあきのよひかな　岡山　西村長子

たらちれのいます方よとあふきみる空にさひしくかりかねそする　甲府　名取千代子

つく〳〵に翁の姿かくれれと菊見る人は若やきにけり　山城　中とみ

なきのはの風になびきておく露の玉とみたるゝあかつきのてら　三河　みとり子

待ち渡る月の夜雨となりにけり何なかことに友をまれかむ　京都　白百合

君が代のとよ年祝ふ山さとはいて入る月もさひしからまし　京都　しのふ

すみなれしわが庵なれど秋の日のくるゝ夕へは淋しかりけり　橫濱　鈴木まつ子

百舌の鳴く雜木林に霧たちて夕日うするゝ柿赤き村　下野　瀧澤秀子

經よみて山路を下る旅僧の破れ衣に秋の風ふく　青森　馬淵川子

千早ふる神のほこらの草むらに見ひかりうけて鳴蟲の聲　三重　莊司種子

なくむしの秋のいとなみさま〳〵につゝりはたなるこゑしきるなり　筑後　佐藤ともえ

もみち葉を染むるいろとも見えぬかなあくまてしろき庭の朝露　山口　末田竹子

くちはてし軒端に露の玉すたれかけわたしたる蜘蛛のいとかな　同　上

まろれせし夢おとろけば歌高う馬追ひ行くよ秋のむら里　下野　瀧澤秀子

草むらにおのか宿りと秋しめてなくなる蟲の聲そ露けき　神奈川　足立原とく子

つみゆかんふせやの背戶の破れ垣にゆかしく咲ける菊の一もと　岩手　渡邊豐惠子

月あかしいさ見に來ませ白玉の露のやどれるはきのさかりを　同　上

萩の花ちりて目立し破れ垣を又かさりけり白菊のはな　甲府　千代子

短文　名殘の秋

蚊の一生　東京　山本ふみ子

秋の弱い夕日が卵色の壁にさした。そこを死の影を帶びた蚊が力なく過ぎた。生について追想した。玉の肌を傷けて鮮々しき血を貪つた事や、酒氣を帶びた荒くれ男に近いて危うく命を捨てんとしたことや、最後に夢幻の樣に、他日羽化するのを樂しみに溝の隅で、赤い細いSの字を描いて居た孑孑時代を思浮めた(一等)

秋の曉　橫濱　後閑らく子

ふと眼がさめて雨戶を繰ると冷たい風がすうつと吹き込で四邊は未だ薄暗い。彼方の山はもやに鎖されて見へず、遊里の燈ばかりぼんやりと見へる。庭の隅では細い聲でこほろぎが啼いて居る(二等)

名殘の紅葉　武藏　佐野くに子

詩の恣より現はれし色もあやなす紅葉、これぞ思ひ出多き日光の名殘よ。我胸には絲を解す如、瀧、響、狹霧、數々、紅葉葉の紅よりも鮮かに浮む。(三等)

秋の夕　橫濱　鈴木まつ子

秋の夕なぜこんなに淋いのでせう。暑い頃は早く秋になれば、と思つて居りましたのに、あゝ何うしたら此淋しさが忘られませう。何處が淋しいのかと問はれましても、此處と取立て云ふことは出來ませんけれども、唯何となく淋しいのです。あゝして往來を通る人も依然秋は淋いと思て步いて居るのでせうか(三等)

○　廣島　金原直子

此世の空氣を吸ひ初めてより僅かに數十日のみどり兒の親として、その昔幼なかりし耳に聞き覺えの守唄、それを今は御愛兒の添乳の折に、浮世かな(三等)

月下のすさび　橫濱　加藤李花

月は雲間を縫ふて出つ入りつ。月、清い月、夜な〳〵變らぬ輝き。汝の光に文字書く我筆は覺束ない。月かくす浮雲。憎い雲。人の一生も亦た。浮雲に掩はれた我、つらきは人生の航路。

評　筆は御達者だが、いかにもくどい、簡潔に。

嬉しさ　德島　かりれ

母樣や義兄さま御存命の頃、私と三人して鐵山を見に行きし歸途、イタドリ取りし面白さ、ぽん〳〵折りし心地よさ。今も嬉しさ忘られず。母なく、義兄なき今イタドリばかりは、昔のやうに。……あはれ。

△文苑々友の君たちへ

これまで文苑欄を擔當して居られました神谷つくば君は御都合で退社されましたので今號から私が此欄を受持つことに成りました。何卒一層苑友の君たちの御同情と御投書の數多からんことを切に祈ります　森　まづか

催眠術

▲成功論!!!

讀者諸君よ!!!、何故に或人は斯く成功する哉何故に或人の關與する事々物々總て黃金と變ずるかの如く思はるゝ哉！、何故に或人は其行動に於て顯著なる效果を擧げざるに財產地位勢力を得世間より尊重渴望せられ超然として秀拔なる頭角を現す以上の現象に就て各位は其念頭に浮べし事ありや！而して各位は其由て來る所以を知れりや？

▲成功は何を獲べきや？

成功は難事なり乎、否！貧者は富者よりも一層難事を働くに非ずや！、系統による乎、否！我米國の成功者は概ね此系統のいやしきものに非ずや！、僥倖による乎、否！僥倖したる人も猶友誼を失ひ貧困にあるに非ずや然らば何故ぞや其故を諸君に說明せん●生涯に於ける成功の秘傳なるものは即ち對人感化力なり換言すれば自己の思ひ通り他人に爲さしむる能力にして、例へば信認を得、友誼の深厚を得、又他人をして自己を援助せしむる事を得るが如きもの也茲に一の神秘的威力あり、夫により當るべからざる偉大なる對人的感應力を使用し、總ての障碍に打勝ち望むがまに〳〵、何人にも愛慕せしめ、心神を恍惚たらしめ、又夫により藥材藥料及外科刀圭の助けを借らずして、總ての疾病を救治し、及惡性の習慣を矯正し得らるゝものなり。其威力！是れ即ち成功の根本的基礎たり。

▲天賦の賜

此威力たるや實に天賦の賜にして。貧者も富者も一樣に必然繼承すべきものとす、又實に現世紀の破天荒の學說たるを失はず、自己の商品は市場に於て最好評を博し、自己の勉勵勤務は認識せられ自己の意見は正義とせられ、總て自己の希望は遂行し得らるゝ等此他萬事が思ふがまゝに他人をして信服措く能はざらしめ得る其眞理那邊にありや？、斯る力が諸君に與ふる利益は如何なるものなりや？を思考せよ若し諸君が現今の地位を進め俸給の增昇を望まるゝならば或は諸君の兩親の收入を增さんと欲するなれば催眠術の智識は諸君に取りて有用缺くべからざるものなる事確也、而して人生に失望落膽し自暴自棄に陷れる人、即ち前途を全然悲觀したる人の生活狀態を改善したる例證枚擧するに遑あらず

▲自宅獨習!!!

本協會は催眠術、心理感應術、感應的治療等を總て小兒と雖も尙通讀了解し得べき平易簡明なる日本語にて詳說したる現世紀の空前絕後の一大著書を今や印刷せり本書は知名卓絕の催眠術家にして造詣淺からざる文學士、哲學博士、法學博士エッキス、ラ、モット、セージ博士の著述なり本書は苟しくも常識を有する人なれば此不可思議の學科を數日間に自宅獨習し朋友知己すら知らざる間に此力を應用し得らるべき嶄新破天荒の當意即妙の極意を詳說せり。本協會は絕對的成功に就て保證し、金貨壹千弗の罰金の責に任ず此破天荒の著書を修習して得たる力により數多の人は年々二千磅より五千磅の範圍を今や作りつゝあり。而して其幾部分の人は非常に甚大の財貨を蓄積し得たり

▲珍書無代進呈!!!

博士は一萬部を無代價にて公衆に配布すべき企畫を以て彼の著書の版權を賣却したり而して此契約は今や實行しつゝあり故に萬國聯合郵便端書(金四錢)を以て左記亞米利加合衆國紐育州ローチエスター市紐育科學協會(　)第　部宛申込まるべし

通信は總べて日本文にて、宛名は左の如く英語にて記され度し英語の記けぬ人は切拔て端書に帖るべし

NEW YORK INSTITUTE OF SCIENCE,
DEPT. 512. E.
ROCHESTER, N.Y,
U. S. A.

紐育州ゴールハム市ポール、ウエラー牧師曰く此偉大なる著書は黃金よりも貴し該書は遺憾なく破天荒の驚愕に價すべき秘傳を詳說せり而して其敎示の價値は聖書の次位にあり予は何人に對しても一部を求められん事を勸告するもの也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句

選者　まつか

天　流星の陣屋に落る野分かな　備後　世應　鑑子
評　集よとの喇叭響く山里

地　小山田の一つ家れたりそばの花　京都　はつ女
評　鶏戸惑ひ啼けり二三羽

人　蕎麥を打つ音に目覺めて夜長かな　横濱　らく女
評　罪多き若き昔は夢の如

秋晴や盥にうつる山の影　長門　鷹田　良子
評　小島囀る御社の森

秀逸

狩當て友呼戻すきのこかな　三重　莊司　稲子
腰辨の役所から出る寒さ哉　横濱　らく女
網の目の雫光りて小春かな　同　同上
田の畔の案山子破れて秋の暮　青森　馬淵　川子
曲彔や紫煙をめぐる秋の風　京都　はつ女
紅葉拾ふ紅葉のやうな小さき手　吳　竹入　勇子
撫子の亂れて咲きぬ富士の麓　東京　中山　由子
磴を下る紫衣と紈袴や夕紅葉　京都　はつ女
生花の萩もこほれてはた寒し　岡山　西村　長子
閨守の自慢を聞きに菊見かな　山城　中　とみ子
月白う馬場に照る夜やくつわ鳴く　尾張　榊原　一花代
焚火して山物語り聞く夜寒　下野　瀧澤　秀子
長き夜を被布紐結ぶ姉妹かな　京都　今井　よし
小春日や障子に戯るゝ猫の影　横濱　後閑　らく子

長詩

秋晴

武藏　佐野くに子

紙鳶は行く　青空に　薄き浮雲なき
麗かの
垣が下　薫る白菊は　母君の笑みも
こもらせむ。
蝶は來て　白菊にたはむれ　ひら〳〵と
碧空かけてや
また菊の香に　紅楓の色彩も
なつかしや。
深山の秋も　色そひて　溪の眞清水
かれてより
車井汲む音　隣にも　衣をすゝぐか
小娘も。

擣衣

横濱　鈴木まつ子

たびまくら　ねられぬまゝに
聞ゆる砧の音　風のふくに
つけて　遠近くなりゆく。
とはまほし　うつ人のむね
窓明て　見れは　月は傾く
曉に。

秋の夜

京都　小原　子

そよふく風に　身にしみて
一重の袖の　寒けれど
松にかゝれる　新月の
さやけき　陰のおしまれて
捨てえぬまゝに　端居せば
露もつ庭の　草の間に
あはれ　調ふる蟲の曲。

遠足

東京　中村えい子

心は空に　速り男の　まどろまれざる　嬉しさよ
いつしかたどる　夢の路や　遠足する　前の夜よ。
朝とく起て　いさみつゝ　藁靴かたく　履しめて
さらはと出つ　目ざす地に　ひた走りしぬ　友達と

秋月

京都　白百合子

酒の香かよふ高殿に　數多の美妓をはへらせて
峯より出る秋の夜の　月見る人やいつこ誰れ
眞萩白萩はかりなる　眞ケ葛原のすて石に
身をは寄つゝ筆持て　月見る人やいつこ誰
京の片里大原野の　八千草咲ける庵の窓
小琴のしらへ音も澄みて　月見る人そなつかしき

秋風

横濱　まつ子

空はすみて　秋の氣清き朝　庵に住む身何となく
人なつかし　つゆ置て　さく小萩　眼に見えぬ　秋
の風は　晴し日にも　似ず　つゆけし

婦人画報

十一月一日　十一月卷　一冊　廿五錢　郵稅二錢　六冊稅共一圓五十錢　十二冊二圓八十八錢

畫報
▲晩秋　彩色石版畫　三宅克已筆
▼北白川宮妃殿下御眞影…
▼伏見若宮妃殿下御出發當日御模樣
▼閑院宮妃殿下婦人敎育會御台臨
▼東伏見宮妃殿下の御運動
▼女學生郊外一日　▼令孃と日曜日
▼女學生の活劇と英語對話…

畫報は婦人界の活歷史
讀物は家庭の羅針盤

讀物
◉過渡時代の女學生と女優…澤柳政太郎
◉危險極まる女優志願者…中島德藏
◉清き婦人…大町桂月
◉人に知られぬ床しき婦人…跡見花蹊
◉我校より出しし女優…三輪田眞佐子
◉娘に書せる小說…物集博士
◉米國人の歡待ぶり…瓜生夫人

▼諸名家令孃寫眞說明　▼鯵料理法　▼珍野菜…
▼新任婦人會長と副會長…
▼天長節夜會の紳士淑女…
▼五閨秀書家席上揮毫…
▼嫁入仕度眞行草三體…
▼日向代議士の家庭…
▼お會式の參詣人と乞食…
▼馬車上の英國兩陛下…
▼團子坂の菊人形種々…
▼菊花展覽會とダリア…
▼渡米成功者伴氏夫妻…

▼結婚前の婦人…山脇房子
▼我受持の生徒…西田敬止
▼女學生の感化…跡見李子
▼東西の看護婦…萩原竹子
▼袈裟御前…遠山稻子
▼令孃訪問記…ゆき子
▼日本と獨逸婦人…森しづか
▼惡娘を持つ母…實話
▼躾を誤る母親…岸邊福雄
▼臺所拜見…
▼寄宿舍より見たる世間…
▼鯵一式…
▼菊紅葉月…

東京　飯田町四ノ四　東京社　電話番町二三三九

東京勸業博覽會二等賞牌受領

都足袋粋乃友

◎三重足袋君ガ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ拔クノ耐久力ヲ有ス
◎三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ冬季ハ寒サ防ク効力ヲ有ス
◎三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮キリ體溫ヲ保ツノ効力アリ
◎三重足袋君カ益ハ製作最モ精密ナリ故ニ縫目ノ破綻スル虞ナシ

三重足袋君の益

◎都足袋ハ夙ニ農商務省ニ出願シテ登錄商標專用ヲ得タル物ナリ
◎都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粋士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
◎都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコナシ
◎都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ履具合良好縫目破綻ノ憂ナシ
◎都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル効力ヲ有セリ

白紺　羽二重足袋

◎羽二重足袋は外觀內容共に美麗にして一般社交界の好評を蒙れり
◎羽二重足袋は御婚禮其他御儀式履きに缺くべからざる必要品なり
◎羽二重足袋は衣裳の裾を傷めざるは勿論裾捌き最もよろし

各種足袋調進所

亀屋

地方よりの御注文は代金引替小包拾足以上は送料自店持にて御送附可申上候

東京日本橋區室町三丁目
亀屋　宮內清兵衞
電話本局一七二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資本金八百萬圓
株式會社 十五銀行
東京京橋區木挽町 電話新橋 三〇〇番 一五三〇番 一九三三番
同 日本橋支店
同日本橋區新乘物町 電話浪花 一九〇一番 二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

產科婦人科小兒科
女醫 鷲山彌生
診察時間 院長 毎日午前八時より 醫員 毎日午後三時より

内科部長 醫學士 武智基造
診察時間 火木土午後壹時より
病室及產室の設けあり入院隨時
東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院 電話番町二二五七

水原產科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院内ニ產婆學校あり

新學期開始
割烹講義錄
入會金免除
科目及講師
▼日本料理　學習院女學部 共立女子職業學校講師　井上善右衛門
▼同上　宮内省大膳職庖司　赤堀吉松
▼西洋料理　櫻井女塾長　櫻井ちか子
▼同上　日本女子美術學校講師　木村刀根子
▼惣菜料理　治庖會長　安西こま子
▼和洋菓子　日本女學校 日本橋高等女學校講師　龜井まき子
▼支那料理　日本女子商業學校割烹部
▼諸國珍料理
▼季節毎日料理　其他科外家政講話、雜錄等
◉會費 一ヶ月卅五錢
◉詳細規則書 無代進呈
東京芝區白金臺町一丁目卅七番地 振替貯金口座一九四一〇番
東京割烹講習會

嶄新模樣 半ゑり帶揚類
十一月一日ヨリ大賣出シ
當日粗景呈上仕候
大見切半ゑり帶揚澤山取揃へ有之候
東京日本橋通り三電車停留場前 わんぷらいすしよつぷ事
ゑり字
電話本局二九四七番

◎產科婦人科 櫻井克巳
芝、明船町十九虎門外 電話新橋三三二四番

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六七九番）
診察時間 自午前九時 至正十二時
内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長 ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 西村漸
脳病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

○院長 ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）
婦人科產科木村病院

當季最新流行
御半ゑり
ゑり善
東京日本橋區堺町ふきや町 電話浪花千二百七十番

季節向流行の半ゑりは神田赤のきんに限る
本店 神田表神保町壹番 電話本局二八五三
出店 新橋博品館階上

めりんす ゆふぜん 太物 いる
人形町通り 赤のれん おばなや本店 電浪四三四五

●家庭教師志望●
身元確實にして私立大學在學中のもの學校の餘暇家庭教師を望む御用の方は當發行所内德富宛御照會を乞ふ

小兒病一般
京橋區南鍋町風月支店斜向電新四八八壹
宅診 午後 醫學士 福田謙之

產科婦人科專門
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

繪葉書通信
通信繪葉書は世にありふれたる寫眞版や石版等に依つて印刷せし繪葉書は使用せず。毎回時に觸れ折に接して描く、最も嶄新多趣味なる肉筆繪葉書を以てす。
滑稽、諷刺、寫生等其他各種
▽通信一ヶ月六回一日五日十日十五日廿日廿五日
▽會費一ヶ月二十四錢半ヶ年壹圓卅錢
申込所 東京市本郷區駒込九山新町七番地 つばめ會

脳神經精神病科
病室清新 診療確實
東京龜戸町電話浪花二五五二
加命堂脳病院

斜視（本院）牛込市谷田町三の廿新見附外
眼科（分院）芝區田町札の辻電車停留場前
一般 特に 成形手術
畑眼科院
電番一八六六 入院隨時

▲安くて良い物を購うて上げます▼
兼て御用達申上て居ます代理部は皆様が坐ながらにして安くて良い物が購ひ得られます
只今はふけ知らず、剃刀不要、美顔たをる、など最も新しき文明的な者を御取次申上げ居ますが御用命に由りては何品によらず御用達致します何卒御用命願上ます
愛國婦人發行所代理部

今ゼムを用ひて倍々健康を保つ

○頭痛眩暈 ○宿酔喉渇
○舟車の酔 ○食傷水傷
○氣の鬱ぎ ○時候の障

△氣分を爽快に
△元氣に働いて
△病氣に罹らず
△愉快に暮すは
「ゼム常用の德」

德包
新發賣常用包は十錢四包分に優美なる儀上形容器を添へ 價拾錢

完全無比 懐中良藥 ゼム 世界唯一口中香錠

全國到る處の藥店に有り

押割麥大擴張

世の進歩に伴ひ最も必要なるは衛生と經濟とであります同時に夫を行ふ好策は何であるかと云へば麥食の勵行であります諸士は醫學大家が數年來麥飯の人體上に適し滋養分を多量に含で居る事を痛說せられし事を新聞雜誌で御存じと思ひます夫に就て我々同業者は先年押割麥を製出し世の攝生家の賞讚を博しましたが尚欠く點あるを保し難く弊店は是が改良策に苦心して居ましたが今回最も良好なる結果を得ました麥飯を厭忌する人も一度口にすれば必ず常食となされます

弊店は開店以來四方の御花客樣に御愛顧の御禮に最とも良品を撰製し殊に**電氣力押割機械を設置**し廉價を以て販賣致します何卒御用命の程願上ます弊店押割麥の特長は石砂のなきと色白く味好く冷飯となりても食べ惡くありません炊き方は白米一升の中へ押割麥三合位混合して水にて能くとぎ米飯と同樣の水かげんにて願ひます御註文の節は「ハガキ」にて代は御返納致します

定價
○一等押割麥 壹圓に付壹斗壹升 壹升は九錢五厘
○二等押割麥 壹圓に付壹斗二升 壹升は九錢
○上挽割麥 壹圓に付九升五合 壹升は拾壹錢

押割麥 製造發賣元 麴町區元平川町三番地平川天神前 (合) 信濃屋商店

タカヂアスターゼ

●不消化の徵候 醫學博士谷口長雄氏曰く『澱粉不消化に因する疾病の重なる徵候は胃の膨滿、疼痛、溜飮、腸内瓦斯蓄積、便秘若くは下痢等にして甚しく營養障害を來す是等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信ず』と

●高峰博士發見の製法に從ふタカヂアスターゼは每瓶强度一定效力不變なり是れ普通製法の幾多模造品と異る特長なり眞正なるタカヂアスターゼを得んには必ず高峰博士のタカヂアスターゼと指定せられよ粉末錠劑の二種あり各地に於ける信用ある藥舗にて取次販賣す

●醫學大家の報告を收載せる『タカヂアスターゼ說明書』あり發賣元東京日本橋室町三丁目三共合資會社へ申込まるれば無代郵送す

授產場の足袋は廉くて丈夫です

一 足袋は當授產場に於て軍人戰死者の遺族並に癈兵家族の裁縫せしものにて尤も丁寧に調製しあります又地質は格別吟味しあれば直段の安き割合に丈夫に出來て居ます故同情の方々は御來の上御驗を願ひます

一 足袋は裁縫教師として部下有名の職人を雇入れ其監督の下に出來たるものにて形も好く又穿き工合の宜しき事は好評を博し居ります

一 足袋の種類は左表の外夏、冬用の各種シャツ、ヅボン下、小兒胸掛(エップル)西洋前掛等も調製販賣致します

一 純白絹天足袋は高尙優美にして衣服の裾を損ずる憂なく且つ穿き心地宜敷又美麗の箱入ゆへ御進物には最も適當と存じます

一 市内に限り十足以上は送料を申受けず御屆致します

文種	上紺雲齋底	上紺石底	上白木綿雲齋底	上白木綿石底	白キャラコ木綿裏雲齋底	同上紋羽裏雲齋底	純白絹天木綿裏雲齋
十一文	三十一錢	三十二錢	廿八錢	廿九錢	廿九錢	三十錢五厘	五十二錢
十文半	三十錢	三十一錢	廿七錢	廿八錢	廿八錢	廿九錢五厘	五十一錢
十文	廿九錢	三十錢	廿六錢	廿七錢	廿七錢	廿八錢五厘	五十錢
九文七分	廿八錢五厘	廿九錢五厘	廿五錢五厘	廿六錢五厘	廿六錢五厘	廿八錢	四十九錢五厘
九文半	廿八錢	廿九錢	廿五錢	廿六錢	廿六錢	廿七錢五厘	四十九錢
九文三分	廿七錢五厘	廿八錢五厘	廿四錢五厘	廿五錢五厘	廿五錢五厘	廿七錢	四十八錢五厘
九文	廿七錢	廿八錢	廿四錢	廿五錢	廿五錢	廿六錢五厘	四十八錢
八文七分	廿六錢五厘	廿七錢五厘	廿三錢五厘	廿四錢五厘	廿四錢五厘	廿六錢	四十七錢五厘
八文半	廿一錢五厘	廿二錢	十九錢五厘	廿錢	廿一錢五厘	廿二錢五厘	四十二錢五厘
八文	廿錢	廿錢五厘	十八錢	十八錢五厘	廿錢	廿一錢	四十錢
七文半	十八錢五厘	十九錢	十六錢五厘	十七錢	十八錢五厘	十九錢五厘	三十八錢
七文	十七錢	十七錢五厘	十五錢	十五錢五厘	十七錢	十八錢	三十六錢
六文半	十六錢	十六錢五厘	十四錢	十四錢五厘	十六錢	十七錢	三十四錢
六文	十五錢	十五錢五厘	十三錢	十三錢五厘	十五錢	十六錢	三十二錢
五文半	十四錢	十四錢五厘	十二錢	十二錢五厘	十四錢	十五錢	三十錢

○紺キャラコ木綿裏雲齋底(十文)三十三錢 (九文)三十一錢 八文七分以上ハ半文毎ニ一錢增
○紺瓦斯織 同 同 (十文)三十五錢 (九文)三十三錢 同
○コール天 同 石底(十文)三十七錢 (九文)三十五錢 同

文種	並紺石底	並白雲齋底	並白石底
十一文・十文半	廿四錢	廿二錢	廿二錢五厘
十文・九文七歩	廿三錢	廿一錢	廿一錢五厘
九文半・九文三歩	廿二錢	廿錢	廿錢五厘
九文・八文七歩	廿一錢	十九錢	十九錢五厘

御注文の御注意
御誂別製ハ壹錢以上增
踵縫目ナシ貳錢增
單足袋ハ袷ヨリ貳錢增
爪三枚ハ貳錢五厘增
裏紋羽ハ壹錢五厘增

東京市麴町區飯田町九段坂下公園
愛國婦人會東京支部授產場
電話番町 五二〇 一、七四五 郵便振替口座 一五、一一四

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮内省御用達

最上醤油之元祖

上

開業貳百六拾五年

釀造元　下總銚子町　濱口合名會社　振替貯金口座五〇貳壹番

最上醤油

品質優等ニシテ調理ニ適ス

發賣元　日本橋區小網町三丁目廿七番地　濱口吉右衛門

釀造元　千葉縣銚子町　濱口吉兵衛

最上醤油　キハク印

於聖路易博覧會　名譽大賞牌受領

キハク印

醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四

專賣特許名和式テンピ

嘗つて婦人世界誌上に於て弦齋夫人の料理談中其の効用を稱せられたる和用兼用テンピなり

大三圓中二圓五十錢小一圓九十錢

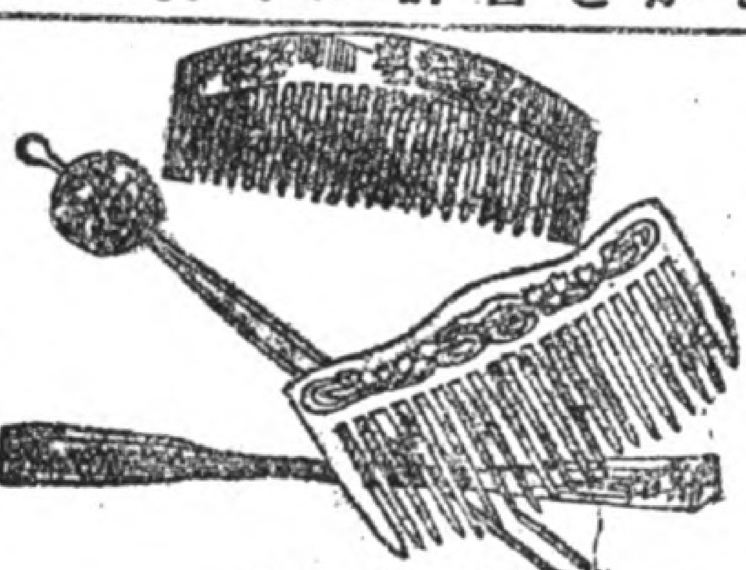
東京日本橋區蠣殼町二ノ十五

特許竈　据風呂　名和商店

電浪一一七七　振替口座一〇二五四

支店神田和泉橋通松永町十八

意匠嶄新破格廉價札付



儀式用鼈甲櫛笄

象牙蒔絵鉄櫛中差

金銀寶石入簪指輪

帯止ピン

珊瑚珠翡翠玉替

根掛

化粧品

治安土州珊瑚直取引市價よりは三割方廉價御便利為御持古るしの小間物引取交換仕候

東京市神田須田町（電話本局二〇七六番　振替口座二八一一番）

小間物商三井屋徳次郎

博品館内支店　東明館内支店

電中　京橋區新橋際　神田裏神保町

御扇子

愛國婦人會御用達

京都寺町五條下ル東側　御影堂　持阿彌

衣裳中入

製造元　麻布狸穴町吹留眞綿製作所

販賣店　全國各呉服店各綿問屋

● 吹留眞綿の眞價世間に知られ頗る好評

● 吹留眞綿は品質精良最も清潔

● 吹留眞綿は衣裳中入として至便經濟

● 吹留眞綿はすいださず衣裳の形をよくす

● 吹留眞綿は普通眞綿二倍の温さにて丈夫なり

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂

電話下谷｛特九六五番　一二四四番｝

內科專門 杏雲堂醫院
神田區駿河臺
電本一六六九
院長醫學博士 佐々木政吉

院長 醫學博士 榊順次郎
副 醫學士 久保德太郎
副 醫學士 田代謹二
施診火木土午後一時至二時
婦人科產科 每日午前診察
婦人科 外科 留學的中外科
外國人 婦人生殖器病
泌尿器及內科 一般 火木土午後診察
婦人科產科 榊病院
麴町三番町三三（電話番町三九五）

にきびを有效に化る粧液 チプリ
到る所に販賣し升
價ガラス入二十五錢
東京本石町 松澤常吉

目 實用新案 出願中 秋冬季節 新模樣 半ゑり帶揚 千歲ショール
右千歲ショールの特色は優美高尙雅致有て生粹なり地質は堅牢無類に御爲め方良く數年の御召用に適ひ御盛裝の時は一層の美裝を観る此新案ショールに限り幾星霜の後ちにも廢りなきを保證し故に千歲ショールと名稱す價は低廉にして御經濟品なり附言御高祖頭巾の代用を成す

內科一般 板垣亭
午前宅診 午後往診
東京神田美土代町三丁目十七番地
電話本局貳千九百七十番

小兒病診療 往診午後 宅診午前
淺草區新福井町二（丸町電車停留場際）
醫學士 內田愼太郎（電話下谷七一八）

讀んで直ぐ役に立つ材料を最も有效に集めた雜誌

婦人世界

十一月一日發行 拾參號 價一冊 拾五錢 郵稅一錢五厘 一年分郵稅共二圓五錢

◎雙子の姉妹が撿定試驗に合格す……
◎大洪水に遭つて船にて逃げた實驗……
▼大酒の私を禁酒させた妻の苦心 安藤太郎
▼男裝して會津に入れる苦心（新島八重）
▼女囚監內婦人犯罪者の生活（婦人記者）
◎敎育に苦心したる實驗……
◎女中が淸國敎師となる……
◎新講談
◎料理談
▼離婚と再婚の可否 村井弦齋
◎女子大學曉星寮を訪ふ……
◎名流婦人の逸話奇聞……
◎文藝談
◎新募集
▼初生兒養育上の注意 加藤醫學博士
▼結婚媒介所で緣結びの話を聞く…一記者
▼掛聲一つで萬病を癒す女醫 婦人記者
◎日本の婦人界は斯く侮辱を受く……
◎外國を旅行して最も驚きたる事……

東京 西紺屋町 實業之日本社 （振替貯蓄口座 三二六番）

AIKOKU FUJIN

(THE PATRIOTIC LADIES).

A Fortnightly Home Journal.

Circulates in all parts of Japan; Official Organ of the Japan Ladies Patriotic Society.

Head Office: Iida Machi, Kojimachi-ku, Tokyo.

All communications respecting European and American Advertisements should be addressed to

THE FAR EASTERN ADVERTISING AGENCY
(Toyo Kokoku Toritsugi Kaisha),
38, Naka Machi, Kobe, Japan.
(or London Office: 57, Craven House, Kingsway, .WC.)

故川上眉山氏著 春陽堂發行
眉山全集
春陽堂編輯局校訂 武內桂舟氏裝釘
全三卷完成!!
帙入、盛裝、大冊總紙數…二千五百頁
各實價 金一圓
小包料上卷拾六錢 中卷下卷各拾四錢
▼取揃て御注文に限り特別割引可仕候
上卷目次〜網代木（暗潮）、墨染櫻、白藤、かゝり舟、撫子、靑嵐、大村少尉、賤機、左褄、ゆく水、袖頭巾、三年味噌、松風
中卷目次〜靑春怨、其日、きみ子、當座帳、朧富士、眞弓槻弓、袖枕、扇巴、無言の聲、夕霧、五十年、西施乳、後向、店暖簾、
下卷目次〜再會、神出鬼沒（上下）、小半日、縒ちがへ、ゆふだすき、餘寒、自我、八重子、蓬が杣、摺小木辭、百味噌、酒正月、ふところ日記
全部三卷
東京 春陽堂發行 振替一六七一

（注意）
近來類似品を販賣する者あれば麝香獸に御注意を乞ふ市內賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候
芳香の永く保つ點にて高評也
御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝
麝香獸印
ムスク香水
大瓶壹圓 中瓶六十五錢 小瓶二十五錢
東京日本橋本石町四 松澤常吉

文學士 藤澤古雪先生新譯
戯曲 新婦人
洋裝美本全一冊 柾紙刷三百五十餘頁 正價金八十錢送料八錢

學習院敎授 東京女子高等師範敎授 文學士 尾上柴舟先生新著
永日
洋裝天金端柾紙 二度色刷頗る美本 正價八十錢送料八錢

發行所 東京市神田區猿樂町貳番地 弘道館 振替口座壹貳壹壹 電話本局二四三二番

色白く艶をだす（大 小 新小角形 卅錢 十錢 十錢）
松澤ホーサン石鹸
●近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ○市內賣藥小間物化粧品店にあり
東京本石町四 松澤常吉

明治四十二年十一月三日發行（每月五日廿日二回）（定價金三錢五厘 一ヶ月七錢郵稅不要）廣告料一行金六拾錢 編輯人 永持德一 發行兼印刷人 山澤俊夫 發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京市牛込區榎町日清印刷株式會社

愛國婦人廣告取扱
神田三河町 博報堂
京橋宗十郎町 正路喜社
日本橋蛎殻町三ノ十一 大興社
京橋區南紺屋町一 一星社
神田須田町 金蘭社
本郷區湯島 弘進社
京橋區 廣告社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

本部最近記事

□總裁殿下御發着　前號所記の如く總裁殿下には宮城支部總會へ御台臨の爲め十月廿二日上野驛御發同廿六日御歸京遊ばされたり御發着の兩日上野停車場へ御送迎申上げし本支部員左の如し

濱尾作子、山脇房子、龜井眞州子、岡田とく子、下岡まつ子、尾崎八重子、阿部篤子、片山龜子、渡邊源子、井伊増子、三輪田眞佐子、有島幸子、仁杉歌子、棚橋絢子、清水米子、松村琴子、松崎悅子、鍋島榮子、押川愛子、三井照子、青山孝子、關郁子、横幕武良子、齋藤勝子、馬島園子、佐藤登美子、笹岡佐知子、志賀八重子、川津登志子、秋間爲子、磯江規矩子、後藤和嘉子、限川京子、中野仙子、前田富子、關萬世子、花房隆子、木村常野、大井百子、長田亥勢子、松崎多滿子、今野喜爲子、栗塚龍子、下山竹子等

宮城支部總會記事

總裁殿下には御用掛代理丹羽前子爵夫人會長代理有地男爵夫人評議員古市博士夫人等を伴はせられ御豫定の如く十月廿二日午前九時十分上野驛御出發同日福島御一泊翌廿三日には福島支部長御同車申上げ午前九時廿五福島御發車同正午十二時五十分仙臺驛御着宮城支部員等一同の御出迎を受けさせられ御旅館御着午後二時十五分御旅館御發二時半高等女學校御着裁縫手藝體操等二三學課御覽三時十分御發師範學校女子部へ御台臨同校生徒學課及成績品等御覽の上四時半御歸館翌廿四日午前十時御旅館御發宮城支部總會々場なる武德殿に向はせられ十時半寺田支部長の御先導にて式場に御台臨あり支部長は會員三千五百人癈兵遺族九百餘人の會衆に對し開會を宣し次で明治三十七八年戰役の際給はりし御令旨を捧讀終つて殿下には左の御諭旨を朗讀あらせらる

愛國婦人會宮城支部は會員漸次増加し會務亦整ひ茲に其第一回總會を開くに方り諸氏と親しく相見るは最も喜ぶ所なり惟ふに本會の事業は年を逐ふて擴張し其成績觀るべきものありと雖も忠愛慈善の主旨を貫徹し遺憾なからしめんには前途尚容易ならざるものあり諸氏幸に心を同うし力を戮せ以て斯業を將來に完成せんことを望む

續て寺田支部長恭く御前に進み左の奉答文を朗讀す

愛國婦人會宮城支部第一回總會を開き茲に畏くも總裁殿下の台臨を仰き特に優渥なる御諭旨を賜はりたるは當支部の光榮とする所なり自今益々同心協力會務の擴張を圖り以て令旨に副はんことを期す謹て奉答す

宮城支部長　寺田　春子

次で中村支部副長會務並に會計報告をなせる後本部評議員有地男爵夫人は會長代理として左の祝辭を朗讀す

愛國婦人會宮城支部は本日を以て總裁殿下の台臨を仰き其第一回總會を開かるゝに至れるは拙子の最も慶賀する所なり回顧すれば本會が明治三十四年に設立の基礎を定めし以來各姉妹方の熱誠なる盡力は年を逐ふて頁好なる効果を來し殊に明治三十七八年戰役に當りては軍隊送迎傷兵員の寄贈出征軍人家族の慰問並に傷病癈兵戰死者遺族の慰藉等に盡瘁せられ遂に今日の如き盛況を觀るに至りたるは喜ばしきの限りといふべし然れども忠愛慈善の目的を遂げ遺族癈兵救護の實を完うせんには前途尚ほ幾多の拮据經營に待たざるべからず姉妹方は希くは倦まず撓まず益々本會の發展に努められ以て殿下の令旨に副ひ奉られんことを願ひ所感を述べて祝詞となす

明治四十二年十月廿四日

愛國婦人會長子爵夫人　岡部拙子

引續き寺田支部顧問左の祝辭を朗讀す

愛國婦人會宮城支部第一回總會は本日を以て擧行さるゝに當り總裁殿下の台臨を辱うし特に優渥なる令旨を賜はる當支部の光榮之れに過ぎず顧ふに三十七年戰役以來遺族癈兵の爲めに救護の任務を盡したるは會員諸氏か愛國の美德に富み熱誠なる奨勵の効に因ると雖も抑又總裁殿下の御盛德に依らずんばあらず今や當支部會員は年を逐ふて増加し會務を整理し事業を擴張し能く此隆盛を觀ることを得たるは國家の爲め深く慶賀すべきことたりとす庶幾くは自今一層奮勵努力博愛慈善の趣旨を貫徹せんことを一言以て祝辭と爲す

顧問正三位勳三等　寺田祐之

之に對し支部評議員能勢三美子會員一同を代表左の答辭を朗讀す

愛國婦人會宮城支部創立以來著るしく會員の數を増し事業年を逐ふて發展し本日畏くも總裁殿下の御台臨を仰ぎ茲に第一回總會を開くの盛運に逢へるは誠に會員一同の喜びに堪へざる所なり今より會員一層努め勵みて本會の發達を圖り以て博愛救護の趣旨を完うせんことを期す聊か一言を述べて祝辭とす

宮城支部評議員　能勢三美

東京支部授産場にて軍人遺族作業の光景

右終りて殿下には左記各員に有功章を御親授遊ばさる

一等有功章拜受者　仙臺市　新妻とく
同　桃生郡　齋藤かつ
同　栗原郡　笠原けん
二等有功章拜受者　仙臺市　松永とみ
同　同　淺倉友
同　同　白石常代
同　同　杉野のふ
同　同　奥宮せい
同　同　武　金
同　加美郡　大立目きぬ
同　仙臺市　入乙女仲
同　同　高岡よれ
同　牡鹿郡　平塚らん

三等有功拜受者　渡邊みい、伊藤幾久壽、山本かれち、山形雪江、内田りう、能勢三美、早川ちやう、永野しもよ、中川喜代、槇とり、櫻田とみよ、齋藤きい、山中つい、宇和野ます、菅岡その、石川千賀、岩佐みよ、櫻井しも、亘理きく、横山さた、田中たつの、野田かつよ、若生ろく、白石きよし、大宮司せん、大友きく、中村なを、江戸きう、今村きよ、白井なか、高橋みん、丹野なみ

續いて殿下には癈兵百五十七名及遺族一千百七十名に對し特別御下賜金あらせられ有地會長代理より慰問の詞あり十一時閉會續て偕行社宴會に御台臨遊ばされ翌廿五日には午前九時廿五分仙臺驛御發車松島驛に御着それより松島海岸に向はせられ大觀山貴賓館に御休憩御晝餐後瑞巖寺、五大堂、觀瀾亭等御巡覽午後三時宮城丸に御乘船灣内御舟遊鹽釜御着鹽釜神社々務所にて御休憩後御歸館あらせられ翌廿六日御歸京あらせられしが宮城支部長初め會員一同は非常の熱心を以て事に當り殊に伊達伯爵世嗣及同夫人の如きは殆んど終始殿下に御隨從申上げ且つ自栽の果物を献上白石驛まで御見送り申上げられたりとぞ因に殿下御通過沿道各地停車場に各地會員等熱心に御奉送迎申上げしは殿下深く御滿足に思召されしことゝ拜察す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最完全なる月經帶は何處に有や

現今月經帶と稱する物數多現れたるも、皆大同小異にして經行の處置法は依然として舊來の挿入法を行ひ只其上を掩ふの具たるに過ぎず、是等の物を使用せらるゝよりは寧ろ舊習に甘せらるゝに如かず○夫れ挿入に依て纖緯の殘留腐敗を來し大害を釀すは醫家の證明する處、然るに弊堂の安全帶は實に凡ての欠點を補ひ且價格の低廉なる實に現世紀の至寶たり○乞ふ御試用の上斯言の妄ならざるを認められん事を　敬白

商標

特許八一九一六

婦人衛生 安全帶

正七位勳五等藥學士 藤川次郎鑑製

東京市本鄉區湯島天神町三丁目二番地

發賣元 安全堂

安全帶 甲一ダース 金六拾錢　半ダース 金參拾五錢
乙一ダース 金參拾錢　半ダース 金拾六錢

但シ大抵ノ御婦人ガ每月金拾五六錢にて充分なる月經處置法が行へます

附屬帶 壹筋特別羽二重製金貳圓以上甲英ネル製金壹圓貳拾錢乙和ネル製金五拾錢丙和ネル製金貳拾錢丁和ネル製金拾五錢

但是は壹筋にて二三年御使用に耐へます

◎市內は御一報次第御屆可申、市外は左の小包料及荷造費を要し候

△安全帶貳ダース附屬帶貳筋迄金拾貳錢○以上安全帶一ダース附屬帶壹筋を增す每に金參錢增

◎參拾打以上御注文の御方へは小包料及荷造費弊堂にて負擔致候

注意!!發賣一ヶ月ならざるに舊店舖狹隘を告げ現今の處に移轉し工場を私設致大多數の御注文に應せらるゝ準備仕候

改良婦人もゝ引

色合　赤、白、桃色、鼠、　定價　中長　九十五錢　大長　一圓五錢

昨冬非常の好評を辱せる本品は最精撰のネル地製にして腰卷を附隨しあれば御召工合のよき事は在來の婦人股引の比にあらず尙本年更らに改良を加へ股引と腰卷の取りはずしができ別々に洗濯する便宜あり婦人方冬の股引には全くこれが一等なり

愛兒の健康に注意する方は

改良衛生もゝ引

大小便自在本ネル綿ネル製

二才用卅四錢　三才用卅八錢　四才用四十四錢　五六才用四十八錢
送料代金引小包四足迄金拾七錢

ねびへしらず本舖

東京市日本橋區ふきや町(電浪二三四八番)

佃屋商店

冬衣新柄

よせきれ見切反物取揃置候

神田今川橋

松屋呉服店

お嫁入支度

七五三の祝着

陳列致し置候

設備の完全と

物品の豊富とは弊店の特色也

十一月一日より冬物新柄大賣出し仕候

扶桑名勝摸樣は既に各種の物品に應用せられ居り申候

和洋雜貨類は季節の新趣味に投じたる逸品のみ取揃候

洋服地質は歐米各國流行界に於ける粹を拔き陳列致候

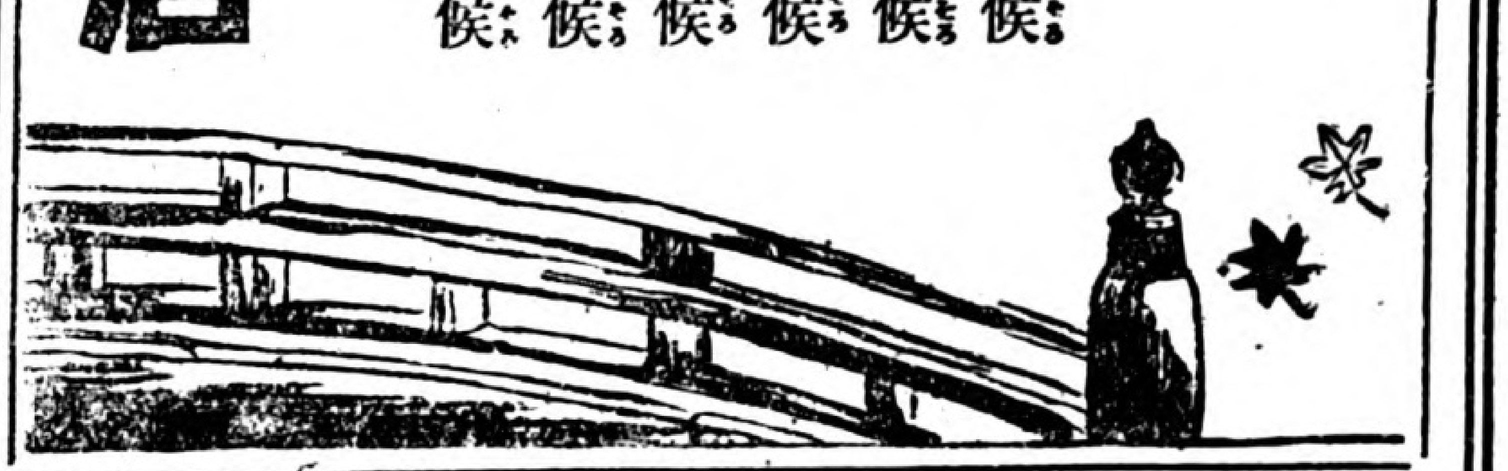
新案グロリー織は今冬流行界の花と賞賛せられ居り候

よせぎれ見切反物日々澤山取揃へ置き申し候

第二回八千代黑染御定紋附懸賞販賣擧行中に有之候

東京市日本橋

白木屋呉服店



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十二年十一月三日(毎月二回五日廿日)發行 明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

愛國婦人第百八拾八號附錄

愛國婦人會副會長
伯爵夫人阿部篤子

愛國婦人會會長
子爵夫人岡部坻子

發行兼印刷人山澤俊夫 編輯人永持德一 發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN